

課程 全日制

教科	公民	科目	公共	単位数	2	学年	1	科	全学科
使用教科書	高等学校 公共（第一学習社）								
補助教材等	クローズアップ公共（第一学習社） 公共ノート（第一学習社）								

1 学習の到達目標

<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究し、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<ul style="list-style-type: none"> ○ 日頃からメディアで報道される時事的な課題に関心を持つとともに、自分なりの論点を見い出すよう努めよう。 ○ 客観的な資料に基づいて諸課題を考察し、解決のあり方を模索する態度を身に付けよう。
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断し、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
主な評価方法	・ペーパーテスト（知識・技能にかかわる問題）の結果	・ペーパーテスト（思考・判断・表現にかかわる問題）の結果 ・提出課題の記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容や行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
	4	第1編 公共の扉	教科		社会に参画する自立した主体とは、孤	・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか、自らの体験な

一学期	<p>第1章 公共的な空間をつくる私たち</p> <p>I 公共的な空間と人間とのかかわり</p> <p>1 社会に生きる私たち</p> <p>2 個人の尊厳と自主・自律</p> <p>3 多様性と共通性</p> <p>4 キャリア形成と自己実現</p> <p>II 社会に参画する自立した主体として</p> <p>1 伝統や文化とのかかわり</p> <p>第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方</p> <p>I 人間としてのあり方生き方についての探求</p> <p>1 人間と社会のあり方についての見方・考え方</p> <p>2 実社会の事例から考える～環境保護</p>	書・補助教材等	<p>立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。</p> <p>古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。</p>	<p>どを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高めあうことのできる社会的な存在であることを理解している。(a) ・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。(b) ・孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるとともに、異文化などの他者との協働により、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察、表現している。(b) ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出し、自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともに、よりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。(a) ・伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。(b) ・公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c) ・選択・判断の手がかりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。(a) ・環境保護や生命倫理に関する事例をもとに、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、選択・判断の手掛かりとしての二つの考え方をもとに、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。(a) ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験などを通して、多面的・多角的に考察、表現している。(b) ・人間としてのあり方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る
-----	--	---------	--	--

一 学 期	5	<p>第3章 公共的な空間における基本的原理</p> <p>I 自立した主体となることに向けて</p> <p>1 人間の尊厳と平等</p> <p>2 個人の尊重</p> <p>3 民主政治の基本的原理</p> <p>4 法の支配</p> <p>5 自由・権利と責任・義務</p> <p>II よりよい公共的な空間づくりをめざして</p> <p>1 世界のおもな政治体制</p> <p>2 日本国憲法に生きる基本的原理</p> <p>第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち</p> <p>第1章 法的な主体となる私たち</p>	古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。	<p>技能を身に付けている。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> 幸福、正義、公正などに着目して考えている。(b) 公共的な空間でどのように生きるかについて、先哲の生き方などを参考に、人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c) <ul style="list-style-type: none"> 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。(a) 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。(a) 幸福、正義、公正などに着目して考えている。(b) 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。(b) 個人と国家・社会との関係から、世界のおもな政治体制について、自己のあり方生き方と民主主義がどのように関係しているか理解している。(a) 公共的な空間における基本的原理と日本国憲法の基本的原則を関連させながら、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
	6	<p>主題1 法や規範の意義と役割</p> <p>1 私たちの生活と法</p> <p>2 法と基本的人権</p> <p>3 自由・平等と法・規範</p> <p>4 法をよりよく変えていくために</p> <p>主題2 契約と消費</p>	<p>憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。</p> <p>法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) 生徒に身近な紛争や課題を取り上げ、どのようにすれば公平・公正に調整できるのか、主体的なルールを作成・利用することで考察、構想、表現している。(b) 法には国家と国民の間を規律する公法や、私人間を規律する私法などがあること、法は刑罰などによって国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけではなく、国民の活動を積極的に促進し、紛争を解決するなど、日常生活に密接に関連していること

一学期	<p>者の権利・責任</p> <p>1 さまざまな契約と法</p> <p>2 消費者の権利と責任</p>		26	<p>解する。</p> <p>契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。</p>	<p>を理解している。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的人権が保障されるにいたった経緯を、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a) ・ 法をよりよく変えていくために、自由権の意味や、社会権が私たちの生活をどのように変えたのか、新しい人権とは何かをさまざまな立場に立って考察している。(b) ・ 幸福、正義、公正などに着目して考えている。(b) ・ 法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c) <ul style="list-style-type: none"> ・ 成年年齢が18歳以上となったことに対し、成年年齢の意味と成年の責任について理解している。(a) ・ 契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) ・ 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a) ・ 家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。(b) ・ 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b) ・ 契約と消費者の権利・責任について、現代の諸課題を具体的な例をもとに、主体的に解決しようとしている。(c)
-----	--	--	----	---	---

二 学 期	7	<p>主題3 司法参加の意義</p> <p>1 裁判所と人権保障</p>		<p>個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国民の権利を守り、社会秩序を維持するために、公正な裁判が保障され、法律家が重要な役割を果たしていることを理解している。(a) ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a) ・検察審査会や国民の司法参加の意義など、具体的な主題を設定し、その主題を追究・解決するために考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b) ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b) ・司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
	8	<p>第2章 政治的な主体となる私たち</p> <p>主題4 政治参加と公正な世論の形成</p> <p>1 選挙の意義と課題</p> <p>2 政治参加と世論形成</p> <p>3 国会と立法</p> <p>4 内閣と行政の民主化</p> <p>5 地方自治と住民の福祉</p>		<p>よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。</p> <p>民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) ・選挙権年齢が18歳以上であることを踏まえ、選挙の意義や、政治的無関心の危険性などについて理解している。(a) ・選挙のしくみ、政党の役割、世論の形成について、さまざまな情報手段を活用して、考察、構想し、表現している。(b) ・国会の地位と構成・権限、議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について、理解している。(a) ・地方自治には、直接民主制の考え方に基づくしくみが、国政よりも多く取り入れられていることを理解しつつ、地方自治の課題についても考察、構想し、表現している。(b) ・政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に

二 学 期	9	<p>主題5 国際社会と国家主権</p> <p>1 国家と国際法</p> <p>2 国境と領土問題</p> <p>3 国際連合の役割と課題</p>		<p>主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。</p>	<p>解決しようとしている。(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) ・ 国際法の意義と役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。(b) ・ 国際社会と国家主権について、国境や領土をめぐる諸課題を主体的に解決するために、必要な情報を収集し、考察、構想している。(b) ・ 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a) ・ 国際連合などの国際機関の役割や課題について、国際平和の維持と安定のために広い視野に立って考察、構想したことを、論拠をもって表現している。(b) ・ 国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
	10	<p>主題6 日本の安全保障と防衛</p> <p>1 平和主義と安全保障</p> <p>2 核兵器の廃絶と国際平和</p> <p>主題7 国際社会の変化と日本の役割</p> <p>1 今日の国際社会</p> <p>2 人種・民族問題と地域紛争</p> <p>3 国際社会における日本の役割</p>		<p>日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。</p> <p>国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるように、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a) ・ 日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。(b) ・ 核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について、さまざまな観点から考察している。(b) ・ 日本の安全保障と防衛について、国連憲章や日米安全保障条約、平和主義を掲げる日本国憲法の下、現代の諸課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。(c) ・ 国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) ・ 人種・民族問題と地域紛争の実態、難民問題にする資料を、さまざまな情報手段を用いて収集し、課題の解決に向けて、国際社会では何がおこなわれているか、理解している。(a) ・ 変化する国際情勢の中で、日本の安全が世界の平和の維持といか

二 学 期	11	<p>第3章 経済的な主体となる私たち</p>	28	<p>少子高齢化による労働力不足が問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。</p>	<p>に関連しているか、広い視点に立って理解し、さまざまな観点から考察している。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な開発(SDGs)にふれながら、国際社会の安定について、国民レベル、国家レベル、国際レベルで何ができるかを、さまざまな観点から考察し、論拠をもって表現している。(b) ・国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
		<p>主題9 社会の変化と職業観</p> <p>1 技術革新の進展と産業構造の変化</p> <p>2 企業の活動</p> <p>3 農林水産業の現状とこれから</p>		<p>グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事と生活との調和という観点から、雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) ・企業・家計・政府の三つの経済主体を考え、経済的な主体となる私たちは、どのように経済活動に参加しているのか、理解している。(a) ・雇用と労働問題について、日本の雇用慣行の崩れなど、現代の諸課題を主体的に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) ・近年の雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体例をあげて多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) ・雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。(c)
		<p>主題10 市場経済の機能と限界</p> <p>1 市場経済と経済運営</p> <p>2 市場経済のしくみ</p> <p>3 経済発展と環境</p>		<p>公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経済の基本的なしくみと資本主義経済、社会主義経済の特徴を理解している。(a) ・価格の変化が、消費者と企業の行動にどのように影響を及ぼしているか、さまざまな観点から多面的・多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b)

三 学 期	12	<p>保全 4 経済成長と国民福祉</p> <p>主題 11 金融のはたらき 1 金融の意義や役割</p>	<p>経済において、金融市場はどのような役割を果たしているのかを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) ・市場機能の限界に対する公共財の供給について、政府の役割を多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) ・外部不経済の典型例である公害について理解し、公害を防止し環境を保全するための方策について考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) ・経済成長が生活に与える影響を、具体的事例をあげて考察している。(b) ・市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
		<p>主題 12 財政の役割と社会保障 1 政府の経済的役割と租税の意義 2 社会保障と国民福祉</p>	<p>少子高齢化が進む中で、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) ・資金の流れ、金融機関の役割、日本銀行の役割について理解している。(a) ・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。(b) ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b) ・金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に取り組もうとしている。(c)
	<p>主題 13 経済のグローバル化 1 国際分業と国際貿易体制 2 国際収支と為替相場 3 経済のグローバル化と日本</p>	<p>経済がグローバル化する中で、貧困や</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) ・財政政策の意義、日本の財政の課題を理解し、財政のしくみ、租税の意義と課題について、具体的に事例をあげて考察、構想し、主体的に考えている。(b) ・社会保障の意義を理解し、現在の社会保障の課題について考察している。(b) ・社会保障制度の充実・安定化に関し、各国の租税負担など財政状況を比較しながら、日本の社会保障制度の諸課題を多面的・多角的に考察、構想、表現している。(b) ・財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c) 	

三学期	<p>4 地域的経済統合の動き 5 国際社会における貧困や格差 6 地球環境問題 7 資源・エネルギー問題 8 国際社会のこれから</p>		<p>格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) ・グローバル化の進展により、貧困や格差の問題、地球環境問題などの解決が、地球的な課題となっていることを理解している。(a) ・貿易の意義、円高・円安が生じる理由、貿易摩擦などについて、考察、構想し、表現している。(b) ・国際経済問題の解決には、国家や国際機構などの多様な組織による協力が重要であることを理解している。(a) ・地域的経済統合がもたらす影響について理解している。(a) ・国際社会における貧困や格差が解消されていない現状について、国際機構の役割や政府開発援助の意義が大きいことを理解している。(a) ・地球環境問題が国際的な問題になっていることや、その解決に向けての取り組みを考察、構想し、表現している。(b) ・資源の有限性を理解しつつ、新エネルギーなどの開発が期待されていることを理解している。(a) ・地理など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。(b) ・国際協力のあり方、国際協調の重要性から、日本の役割について自分自身の問題として、主体的に解決しようとしている。(c)
三学期	<p>第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち</p> <p>①地球環境問題～排出量取引を考える ②資源・エネルギー問題～ベストミックスを考える ③生命倫理～ゲノム編集を考える ④情報～インターネットによる投票を考える ⑤国際社会の課題～フェアトレードを考える</p>	2	<p>持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。(b) ・課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。(b) ・現代の諸課題を、「第1編 公共の扉」で学んだことを基に、幸福、正義、公正や公共的な空間における基本的原理を用いて、考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
三学期			16	

--	--	--	--	--	--	--

合計 70 時間

課程 全日制

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2	学年	2	科	全学科
使用教科書		明解 歴史総合（帝国書院）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ① 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ② 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③ 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
	① 知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	具体的な項目
学習上の観察			◎	学習活動の様子や発表、討論などの内容。
提出課題		○	◎	現代的な諸課題を探究する際のレポート。単元ごとに実施。
振り返りシート		○	◎	自らの学習状況の把握や学習改善のための自己評価、生徒によ

				る相互評価の内容。歴史的考察の試行錯誤の経緯。
小テスト	○			單元ごとの知識・技能の学習状況把握のために実施。
論述の内容		○	◎	定期考査の論述問題の内容。
定期考査	◎	◎		出題範囲における知識と技能の習得の状況，思考力・判断力・表現力を評価。各学期1回。

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

- 歴史を「自分事」として理解し、主体的に考えるために、日頃からニュースなどに目を通して身近な諸問題について興味・関心を広め、歴史と現代の諸課題を関連づけられるようにこころがけよう。
- 歴史的事象の暗記におちいらないようにこころがけながら、「歴史の学び方」を学び、歴史と現代の諸課題の原因や背景を、客観的な資料に基づいて自ら調べ、その解決のあり方を積極的に模索できるような学びの場としよう。
- グローバル化する国際社会の中で、新たな社会を創造できる工業人となるためにも、日本だけでなく世界の歴史や現代社会の構造を知り、これからの人生に生かせるような広い視野と深い教養を獲得できるように授業に取り組もう。
- 単位数が少ないため、1時間1時間の授業を大切にすること。欠課・遅刻をしないこと。

4. 年間学習計画

		学習の内容	考査範囲	予定時数
一 学 期	4 月	1部 歴史の扉 1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料	期末考査 左記範囲	26
	5 月	2部 近代化と私たち 序章 近代化への問い 1章 江戸時代の日本と結び付く世界 2章 欧米諸国における近代化 3章 近代化の進展と国民国家形成 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5章 近代化が進む日本と東アジア		
	6 月	「近代化」を振り返り、現代的な諸課題と結び付けて考える		
二 学 期	7 月	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 序章 国際秩序の変化や大衆化への問い 1章 第一次世界大戦と日本の対応	期末考査 左記範囲	28
	8 月	2章 国際協調と大衆社会の広がり 3章 日本の行方と第二次世界大戦 4章 再出発する世界と日本		
	9 月	「国際秩序の変化や大衆化」を振り返り、現代的な諸課題と結び付けて考える		
	10 月 11 月			
三 学 期	1 月 2 月	4部 グローバル化と私たち 序章 グローバル化への問い 1章 冷戦で揺れる世界と日本	期末考査 左記範囲	16

1 月	2章 多極化する世界 3章 グローバル化のなかの世界と日本		
2 月	これまでの学習を振り返り、現代的な諸課題の形成と 展望を考える		
3 月			

合計 70 時間

課程 全日制

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書		地理総合（実教出版）							
補助教材等		コンパクト地理総合地図（二宮書店）							

1 学習の到達目標

<p>1 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。</p> <p>2 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養わせる。</p> <p>3 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めさせる。</p>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<ul style="list-style-type: none"> ○ 地球環境が大きく変化している今、世界各地の自然環境の変化やそれにもなつて生じている諸事象について関心を持とう。 ○ 化石燃料から再生可能エネルギーへの転換期にある今、資源やエネルギーに関する世界の動向に関心を持とう。 ○ 世界の諸地域を学ぶことで、その地域の特色を知り、民族や文化、宗教への関心を深めよう。 ○ 日本と世界のつながりを知ることで、将来の日本の針路について考えを深めよう。
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<p>基礎的な地理の知識： 地球の自然環境や人間活動に関する基礎的な知識が習得できていること。</p> <p>地理情報の活用： 地理情報システム（GIS）や地図の読解、統計データの解釈など、現代の技術を活かした地理情報の活用ができること。</p>	<p>今日生じている地理的な現象や課題に対して、情報を整理し、因果関係を理解し、論理的な説明や議論ができる。</p>	<p>地理の授業を通じて世界の諸課題を理解し、それらを自分とのかかわりにおいてとらえようとする姿勢を持っている。</p>
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査（知識・技能にかかわる問題）の結果 ・ 振り返りシートの内容 ・ 調べ学習の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査（思考・判断・表現にかかわる問題）の結果 ・ 振り返りシートの内容 ・ 調べ学習の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の論述問題やレポートの記述内容 ・ 授業中の活動状況 ・ 振り返りシートの内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
----	---	----	----	----	------	------

1 学 期	4 月	1. 球面と平面	教科書・地図帳	1	<p>○なぜ様々な種類の地図があるのだろうか。</p> <p>・図法の違いによる用途を考える。</p>	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地軸の傾きや季節変化についての基本的な事柄を理解し、緯度の高低と季節変化や日常生活への関わりをまとめることができている。 ・時差が生じる理由を理解し、アクティブ p. 212 を活用して、時差の計算をすることができる。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緯度による人々の生活文化の違いについて考え、その違いを多面的・多角的に考察し、レポートなどで適切に表現している。 ・時差が人々の日常生活に与える影響について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時差が経済活動に与える影響などに興味関心を持ち、他科目（『公共』など）との関連性を意欲的に見だし、広い視野で学ぼうとしている。
1 学 期	4 月	2. 緯度と経度	教科書・地図帳	1	<p>○緯度・経度と人々の生活文化はどのように関係するのだろうか。</p> <p>緯度・経度の違いと、人々の生活文化との関係を考える。</p>	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地軸の傾きや季節変化についての基本的な事柄を理解し、緯度の高低と季節変化や日常生活への関わりをまとめることができている。 ・時差が生じる理由を理解し、アクティブ p. 212 を活用して、時差の計算をすることができる。 <p>(b)・緯度による人々の生活文化の違いについて考え、その違いを多面的・多角的に考察し、レポートなどで適切に表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時差が人々の日常生活に与える影響について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 <p>(c)・時差が経済活動に与える影響などに興味関心を持ち、他科目（『公共』など）との関連性を意欲的に見だし、広い視野で学ぼうとしている。</p>
	4 月	3. 日常生活のなかの地図	教科書・地図帳	1	<p>○なぜ私たちの生活に地図が必要なのだろうか。</p> <p>・様々な地図情報を学び、その活用法について考える。</p>	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ p. 214 を活用し、地形図から標高や比高、距離などを読み取ったり計算したりすることができる。 ・アクティブ p. 214, 215 を活用して、新旧の地形図を比較し、その違いを読み取ってまとめることができている。 ・アクティブ p. 13 を活用して、GIS の有用性を理解できている。 <p>(b)・ア</p>

						<p>クティブ p. 213 を活用して、地理情報に対応した適切な地図表現の方法を判断・選択することができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ p. 13 を活用して、ファストフード店の分布に関する地理情報を重ね合わせ、読み取った内容を適切に表現している。(c)・身近な地域の課題解決に向け、主体的に情報を選択し、地図表現をすることで、試行錯誤しながらも世界や地域に対する課題意識を高め、その課題解決に意欲的に関わり追究しようとしている。
1 学期	5 月	4. 国家の領域	教科書・地図帳	1	<p>○国家の主権はどこまで及ぶのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主権の及ぶ領域について学ぶとともに、様々な国境の形態を理解する。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p15 を活用し、様々な国境の形態を理解できている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国境の形態の違いとその形成要因について、多面的・多角的に考察することができている。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な国家の領域について目を向け、領域の役割について主体的に追究し、学習したことを社会生活に生かそうとしている。
1 学期	5 月	5. 日本の位置と領域	教科書・地図帳	1	<p>○日本の領域はどこまでなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の位置的特徴を確認し、周辺地域との関係性を考える。 ・日本の領域とその重要性について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の位置的特徴や領域に関する基本的知識を身に付けている。 ・日本が抱えている領土をめぐる問題や課題について理解できている。 ・日本の領域について、p. 16 の地図で表現されている内容を読み取ることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の領域や領土問題について、地域性や歴史的背景などを踏まえながら、多面的・多角的に考察することができている。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で起こっている領土や領域をめぐる問題や課題に意欲的に目を向け、その解決策を追究していこうとしている。
1 学期	5 月	6. 国家間の結び付き	教科書・地図帳	1	<p>○第二次世界大戦以降、世界の国々はどのように結び付いてきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家どうしの結び付きから、国際情勢の変化や、国際協力の必要性を考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家が連携する理由について理解できている。 ・第二次世界大戦後の国家間の結び付きについて、歴史的背景を理解できている。 ・p. 19 の地図を活用し、国家間の結び

					<p>付きの特徴を読み取ることができている。</p> <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家間の結び付きが人々の生活に与える影響を多面的・多角的に考察することができている。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の中で、誰も取り残さない世界を目指した国家間の結び付きの必要性を考察し、よりよい国際社会の実現に向け、意欲的に課題解決に取り組もうとしている。 	
1 学 期	5 月	7. 国家間の結び付き	教科書・地図帳	1	<p>○モノ・人・情報は、グローバルな社会の中でどのようにつながっているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家どうしの結び付きから、国際情勢の変化や、国際協力の必要性を考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p. 20の地図から、労働者の移動について必要な情報を読み取り、特徴を考察することができている。 ・統計資料等から国家間の情報に関する現状について理解するとともに、その特徴を読み取ることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働者の国家間の移動について、様々な背景を多面的・多角的に考察している。また、考察から得られた特徴をレポートにまとめるなど、適切に表現している。 ・情報の結び付きと諸問題について、多面的・多角的に考察ができている。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の移動のグローバル化によって生じる様々な問題を身近な課題としてとらえ、その解決策について意欲的に考察しようとしている。 ・情報格差の問題について学んだことを生かし、格差是正とその解決策について意欲的に考察しようとしている。
1 学 期	5 月	8. 世界の交通、物流と日本	教科書・地図帳	1	<p>○なぜモノや人は大量かつ広範囲に移動できるようになったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸・海・空の交通網がどのように発展したのかを考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p. 23の地図から、時間距離の短縮を地図表現から読み取ることができている。 ・主題に対し、適切な地図や統計資料を選択し、内容をまとめることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通網や輸送技術の進展について、統計資料や地図を読み取りながら、レポートや定期テストの論述問題等で適切に表現できている。 <p>(c)</p>

						<ul style="list-style-type: none"> 交通や物流の変化が世界経済に与えた影響について主体的に考え、学習内容と社会生活との接点を積極的に見いだそうとしている。
1 学 期	5 月	9. 観光のグローバル化	教科書・地図帳	1	<p>○なぜ日本への観光客数は増加しているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光の多様化が進むことで、日本の観光がどのように変化してきたか考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図や統計資料などの中から適切な資料を用いて、日本における観光のグローバル化を読み取り、その特徴をまとめることができる。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の旅行形態の多様化について、多面的・多角的に考察ができている。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な旅行の形態について、興味関心を持っている。 観光についての多面的・多角的な考察を通して、様々な日本の魅力を積極的に見いだそうとしている。
グループ1 自然環境と生活文化						
1 学 期	6 月	■ <u>テーマ1</u> 地形と生活文化	教科書・地図帳	2	<p>○人々は山地や平野、海岸に広がる地形をどのように利用して生活しているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 山地・平野・海岸における地形の特徴と生活文化との関係を考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地形の特徴の違いと人々の生活文化との関わりについて理解できている。 アクティブ p. 215 を活用して、新旧の地形の変化を読み取ることができる。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの地形の特徴と人々の生活文化との関わりについて多面的・多角的に考察し、レポート等にまとめるなど適切に表現している。 それぞれの地形で暮らす人々が抱える課題について多面的・多角的に考察している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地形条件や地形の開発などによって生じる生活上の課題について主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。
1 学 期	6 月	■ <u>テーマ2</u> 気候と生活文化	教科書・地図帳	3	<p>○様々な気候帯における生活上の工夫や課題にはどのようなものがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な気候に人々はどのように対応し、工夫しながら暮らしているのか考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各気候の分布とその特徴について理解できている。 アクティブ p. 220 を活用して、雨温図を作成し、その特徴を読み取ることができる。 アクティブ p. 221 を活用して、住居に関する2つの写真を読み取り、気候の違いを踏まえながらその特徴をまとめることができる。

					<ul style="list-style-type: none"> それぞれの気候の特徴と関連した人々の生活文化について理解できている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの気候の特徴を写真等から読み取り、人々の生活について多面的・多角的に考察し、レポート等にまとめるなど適切に表現している。 それぞれの気候帯で暮らす人々の生活の中から問いを見だし、「持続的な生活」といった観点を踏まえながら協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの気候帯で暮らす人々の抱える課題について主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。 	
グループ2 産業の進展によって変化する生活文化（いずれかのテーマを選択）						
1 学 期	7 月	<p>■<u>テーマ1</u></p> <p>急速な経済発展で揺れ動く人々の暮らし（東アジア）</p>	教科書・地図帳	3	<p>○人々の生活文化を支える産業はどのように発展してきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人々の生活文化を支える産業や貿易の発展の過程と格差について考える。 <p>○経済発展や社会の変化により、人々の生活や産業はどのように変化したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済発展や社会体制の変化、グローバル化の進展が人々の生活文化に与えた影響について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東アジアの経済発展の過程を社会変化と関連させて理解できている。 透過シートを活用し、中国における都市と農村の地域性について違いを読み取ることができている。 アクティブ p.222 を活用して、主題図を作成し、中国の農業地域の特徴を読み取り、食文化と関連させて理解できている。 経済発展による社会の変化について、必要な情報を収集し、まとめることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市と農村の社会変化の違いを多面的・多角的に考察している。 急速な経済発展により生じた様々な諸課題について、その解決策などを協働的に考察・構想し、適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東アジアの急速な経済発展について主体的に追究し、自らの社会生活に関連する課題について意欲的に考察し、その解決策を主体的に構想しようとしている。
1 学 期	7 月	<p>■<u>テーマ2</u></p> <p>多様な文化・産業に彩られた人々の暮らし（東南アジア）</p>	教科書・地図	3	<p>○新しい文化の流入や植民地化、産業の進展は、国や社会の形成にどのような影響を及ぼしたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国文化やインド文化と新たな 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東南アジアの植民地化の進展を理解している。 各種統計資料から、産業の進展を読み取ることができる。

			図帳	<p>文化の流入による東南アジアの生活の変化を考える。</p> <p>○人々は自然環境をどのように利用して生活しているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を生かした東南アジアの人々の生活と、その変化について考える。 <p>○地域内の連携による経済の発展はどのようになすとげられたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ASEANの結成と経済発展による人々の生活の変化について考える。 <p>○経済成長により人々の生活文化はどのように変わるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済成長による伝統的な生業の変化について考える。" 	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの島嶼部と大陸部で営まれる生活の地域的な特徴について理解している。 ・東南アジアの民族や宗教の多様性について、歴史的な経緯を含めて理解している。 ・ASEAN諸国の経済発展を統計資料等より読み取り、地域内の連携についてまとめることができています。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの生業について多面的・多角的に考察し、自然環境を生かした生業の課題についてレポートにまとめるなど適切に表現している。 ・国家間の経済連携が人々の生活文化に及ぼした影響について多面的・多角的に考察し、レポートや発表等で適切に表現している。 ・アクティブ p. 69 を活用し、経済発展と都市問題の関係について協働的に考察・構想し、身近な課題として適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの急速な経済発展について主体的に追究し、自らの社会生活に関連する課題について意欲的に解決しようとしている。 ・生業の持続可能性について主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。 	
グループ3 宗教に基づいた生活文化 (いずれかのテーマを選択)						
2 学 期	9 月	<p>■テーマ1</p> <p>ヒンドゥー教と結び付く生活文化 (南アジア)</p>	教科書・地図帳	2	<p>○南アジアの成り立ちや人々の生活、産業の発展に宗教はどのように関わってきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒンドゥー教と南アジアの社会生活について考える。 <p>○宗教と結び付きの強い社会は、どのような解決すべき課題があるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アジアの諸課題と宗教との関係を考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の宗教分布について、p. 70の地図を読み取り、特徴をまとめることができる。 ・宗教と結び付いた社会の成立過程を理解している。 ・ヒンドゥー教についての基本的な特徴を理解している。 ・宗教と社会生活の関わりについて、必要な資料を収集し、読み取り、まとめることができています。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教と結び付きの深い国々の特徴についてまとめ、表などで適切に表現している。 ・ヒンドゥー教が人々の生活文化や産業の進展に与えた影響について多面的・多角的に考察し、宗教が関係している課題について、レポートや発

					表等で適切に表現している。 (c) ・宗教と社会生活の関連について主体的に追究し、課題の解決策を意欲的かつ主体的に考察・構想しようとしている。
2 学 期	9 月	■ <u>テーマ2</u> イスラームと結びつく生活文化 (西アジア・北アフリカ)	教科書・地図帳	3	○イスラームはなぜ西アジアを中心に拡大したのだろうか。 ・イスラームが西アジアを中心に広まった理由について考える。 ○人々の生活や産業の発展にイスラームはどのように関わっているのだろうか。 ・イスラームの考え方や習慣と人々の生活文化との関係について考える。 (a) ・イスラームの成り立ちやその拡大について理解している。 ・イスラームの習慣について必要な情報を収集し、その特徴をまとめることができる。 ・イスラームとヒンドゥー教の習慣の違いを比較し、まとめることができる。 ・イスラーム社会の抱える問題について、必要な情報を収集し、その特徴をまとめることができる。(b)・イスラームの拡大と分布の特徴について主題図を作成するなど、適切に表現している。 ・イスラームの生活習慣について、伝統的な習慣だけでなく、グローバル化や社会状況の変化により見られる多様化を多面的・多角的に考察し、レポート等に適切に表現している。 ・イスラーム社会が抱える問題について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 (c) ・イスラーム社会の課題と日本や身近な地域との関連性を主体的に追究し、課題との関わりについて意欲的に考察し、その解決策を主体的に構想しようとしている。
グループ4 国家・民族・言語の結び付きと生活文化 (いずれかのテーマを選択)					
2 学 期	10 月	■ <u>テーマ1</u> 国家の統合と生活文化 (ヨーロッパ)	教科書・地図帳	3	○なぜ世界には多様な生活文化がみられるのだろうか。 ・多様な民族や言語の存在およびその分布について考える。 ○地域の統合はどのように進み、地域内の産業や生活文化にどのような影響を与えているのだろうか。 ・ヨーロッパを事例として、地域統合の歴史と地域の変化を考える。 (a) ・世界の民族分布の特徴を、p.92の地図から読み取ることができている。 ・ヨーロッパの地域統合の過程を理解している。 ・ヨーロッパの地域統合による人々の暮らしの変化について、情報を読み取り、まとめることができている。 ・p.100の地図や写真から、地域統合によって生まれてきた課題を読み取ることができている。 ・ヨーロッパの農業や工業の発達について、地域の生活文化と関連づけて理解している。

					<p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語が異なる民族間で生じている様々な問題や課題について多面的・多角的に考察し、レポートや発表等で適切に表現している。 ・地域統合に伴う人々の生活に関する課題について、格差や多文化共生の観点から協働的に考察・構想し、発表等で適切に表現している。 ・持続可能な社会の実現に向けたヨーロッパの様々な産業の取り組みについて多面的・多角的に考察し、レポートや発表等で適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域統合による人々の生活の変化について主体的に追究しようとしている。 ・地域統合による格差や多文化共生といった課題に対し、身近な課題と関連付けて主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。 ・ヨーロッパの持続可能な社会の実現に向けた産業面での取り組みについて主体的に追究し、日本の課題と関連付け、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。 	
2 学 期	10 月	<p>■<u>テーマ2</u></p> <p>国家の拡大・変容と生活文化 (ロシアと周辺諸国)</p>	教科書・地図帳	3	<p>○世界最大の国家はどのように形成され、どのように変容したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多民族国家ロシアの歴史と人々の生活について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p108の地図から、ロシアが多民族国家であることを読み取り、特徴を理解している。 ・ロシアの生活文化について、社会制度の変化に加え、民族・宗教の違いにも着目しながら理解できている。 <p>(b)・自然環境の厳しい地域に暮らす人々の生活と産業の関わりについて多面的に考察し、課題点を見いだしたうえで、それらを適切に表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシアと日本の関係について、生活文化や経済面での関わりなど多面的・多角的に考察し、レポートや発表等で適切に表現している。(c)・ロシアと日本の関わりについて主体的に追究し、両国間の課題について、その解決策を主体的かつ意欲的に考察・構想しようとしている。
2 学 期	10 月	<p>■<u>テーマ3</u></p> <p>多民族・多文化の共存と生活文</p>	教科書	3	<p>○なぜ地域紛争や民族対立が起こるのだろうか。</p>	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの植民地支配について p, 112の地図を読み取り、まとめることが

		化（サハラ以南 アフリカ）	・ 地 図 帳	・サハラ以南アフリカの事例か ら，多民族社会の生活文化と課 題について考える。	できている。 ・アフリカの言語分布と植民地支配と の関連性を理解している。 ・アフリカの産業の特徴について p. 116 の図表から読み取り，理解してい る。 (b) ・アフリカの民族分断の背景や要因に ついて多面的・多角的に考察し，レ ポートにまとめるなど，適切に表現 している。 ・アフリカの伝統的な生業とその変化 について問いを見だし，生活文化 の持続的な発展といった観点からレ ポートにまとめたり発表したりする など，適切に表現している。 ・アフリカの抱える課題を見だし， 課題解決の観点などから協働的に考 察・構想し，それらを適切に表現し ている。 (c) ・アフリカの伝統的な生業と経済発展 による課題の関係性について主体的 に追究し，その解決策を意欲的に考 察 ・構想しようとしている。 ・貧困や教育，多文化共生などといっ たアフリカの抱える課題について， 自らの社会生活との関わりを積極的 に見だし，その解決に向けたあり 方を意欲的かつ主体的に考察・構想 しようとしている。
--	--	------------------	------------------	---	--

グループ5 移民とともに形成された生活文化（いずれかのテーマを選択）

2 学 期	11 月	■ <u>テーマ1</u> 移民国家の形成 と生活文化（北 アメリカ）	教 科 書 ・ 地 図 帳	3 ○移民による多文化共生社会はど のように形成されたのだろうか。 ・移民国家がどのように形成され てきたか考える。 ○移民はどのように国を支えてい るのだろうか。 ・農業や工業などの面で移民の役 割の違いについて考える。	(a) ・移民国家が形成された歴史的背景を 理解している。 ・アメリカ合衆国の移民構成につい て，p. 126の地図を読み取り，まとめ ることができている。 ・移民が深くかかわる産業や労働につ いて，写真などの必要な情報を収集 し，読み取り，まとめることができ ている。(b)・移民の生活文化とそれ に対する誤解や差別といった問題に ついてレポートにまとめるなど，適 切に表現している。 ・移民差別や，労働にかかわる移民の 問題や課題について協働して多面 的・多角的に考察・構想し，それら を適切に表現している。
-------------	---------	--	---------------------------------	---	--

						(c) ・移民にかかわる課題について主体的に追究し、アメリカ社会の構造的な側面などから解決すべき課題を意欲的に見いだそうとしている。
2 学 期	11 月	■ <u>テーマ2</u> 移民による多文化社会の形成と変容（ラテンアメリカ）	教科書・地図帳	2	○先住民と移民による多民族・多文化社会はどのように形成されてきたのだろうか。 ・先住民と移民の共存による多文化社会の形成について考える。 ○ラテンアメリカの生活文化はどのように形成されたのだろうか。 ・ラテンアメリカの生活文化形成の背景と、その後の発展を考える。	(a) ・ラテンアメリカへの移民流入の歴史を理解している。 ・p. 134の地図からラテンアメリカにおける人種・民族構成と言語などの関係を読み取り、まとめることができています。 ・p. 137の写真より、ラテンアメリカの産業の発展と社会の変化について情報を収集し、読み取ることができています。 (b) ・先住民が移民にもたらしたものや、移民が先住民にもたらしたものについて主題図等にまとめ、適切に表現している。 ・ラテンアメリカで人種・民族の融合が進んだ理由について多面的・多角的に考察し、レポート等で適切に表現している。 ・移民がもたらした大規模農業や鉱工業の発展にともなって現れた新たな課題について、協働して多面的・多角的に考察・構想し、発表等で適切に表現している。 (c) ・先住民と移民と融合について主体的に追究し、日本との関わりについても意欲的に追究しようとしている。 ・移民との関わりにより進展した大規模農業や産業の発展と地球規模の課題について主体的に追究し、持続可能な社会へ向けた課題を意欲的に解決しようとしている。
2 学 期	11 月	■ <u>テーマ3</u> 先住民と移民による多文化社会の発展（オセアニア）	教科書・地図帳	2	○なぜ移民を多く受け入れる国があるのだろうか。 ・積極的に移民を受け入れる理由と国の発展について考える。 ○先住民と移民による多文化社会はどのように形成されてきたのだろうか。 ・積極的に移民を受け入れた国における先住民と移民の関わりについて考える。	(a) ・統計資料などから、オーストラリアが積極的に移民を受け入れる背景について読み取り、まとめることができています。 ・p. 142の資料から、オーストラリアの移民推移の変化を読み取り、その特徴をまとめることができています。 ・農業や鉱工業の視点からオーストラリアの特徴を読み取り、まとめることができています。 ・大陸部と島嶼部の生活文化について

					<p>○多文化社会の生活文化にはどのような特徴や変化がみられるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業や経済活動の変化による多文化社会の生活について考える。 	<p>比較し、その違いを読み取ることができている。</p> <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> オーストラリアが移民を多く受け入れる理由について考察し、多文化共生に至るまでの課題や今後の課題について多面的・多角的に考察し、レポート等で適切に表現している。 オーストラリアの産業発展と移民の関わり方について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 大陸部・島嶼部それぞれの社会が抱える課題について協働して多面的・多角的に考察・構想し、発表等で適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> 移民の受け入れと国の発展について主体的に追究し、移民増加に伴う課題等について意欲的に解決しようとしている。 島嶼部の先住民が抱える課題について地球的な課題と関連付けて主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。
2 学 期	12 月	1. 人口問題の展開と対策	教科書・地図帳	1	<p>○人口増加の問題解決のためにどのような取り組みが行われているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口増加の問題を、世界的な視野で考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口爆発が起きるまでの人口変化の過程や世界の人口の偏りを理解している。 人口ピラミッドから人口変化を読み取ることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域によって異なる人口問題に着目し、それぞれの地域の人口問題についてレポートにまとめるなど、適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口増加の問題について主体的に追究して、世界の諸課題の解決に意欲的に関わろうとしている。
2 学 期	12 月	2. アンバランスな人口分布	教科書・地図帳	1	<p>○少子高齢化はどのような問題を引き起こすのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化が先進諸国にどのような影響を及ぼしているか考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口増加による人口問題との違いを理解している。 先進諸国の人口に関する諸情報を収集し、人口変化を読み取ることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の少子高齢化の問題について、世界の人口問題と比較して多面的・多角的に考察し、課題について適切に表現している。 <p>(c)</p>

						<ul style="list-style-type: none"> 日本の抱える少子高齢化の課題について主体的に追究し、課題解決に向けて学習したことを生かそうとしている。
2 学 期	12 月	3. 食料問題の 要因と解決に向 けた課題	教 科 書 ・ 地 図 帳	1	<ul style="list-style-type: none"> ○発展途上国と先進国の食料問題にはどのような違いがあるのだろうか。 ・食料問題の要因を考えるとともに、発展途上国と先進国の食料問題の違いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> (a) <ul style="list-style-type: none"> ・世界の食料問題の現状を、p. 156 の地図から読み取ることができる。 ・人口増加による食料問題の進展を理解している。 (b) <ul style="list-style-type: none"> ・p. 156-157 の地図から、食料や飲料水などの利用の不均衡な状態を考察し、世界の食料問題についてレポートにまとめるなど適切に表現している。 (c) <ul style="list-style-type: none"> ・世界の食料問題について主体的に追究し、自分との関わりについて積極的に考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。
2 学 期	12 月	4. 食料問題へ の取り組み	教 科 書 ・ 地 図 帳	1	<ul style="list-style-type: none"> ○食料問題に対して国際社会はどのように取り組んでいるのだろうか。 ・食料問題に対する世界の取り組みより、その重要性を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> (a) <ul style="list-style-type: none"> ・様々な国際機関の役割を理解している。 (b) <ul style="list-style-type: none"> ・食料問題と関わりのある SDGs 目標を関連づけて、多面的、多角的に考察している。 (c) <ul style="list-style-type: none"> ・フードロスなどの課題に対し、主体的に追究し、学習したことを社会生活に生かそうとしている。
2 学 期	12 月	5. 都市・居住 問題	教 科 書 ・ 地 図 帳	1	<ul style="list-style-type: none"> ○都市問題に対してどのような取り組みが行われているのだろうか。 ・発展途上国と先進国の都市問題の違いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> (a) <ul style="list-style-type: none"> ・都市人口の増加によって引き起こされる都市問題について理解している。 ・先進国における都市問題の要因について理解している。 (b) <ul style="list-style-type: none"> ・p. 160 の地図とグラフから都市問題の深刻な地域を推測し、それぞれの地域の課題についてレポートにまとめるなど、適切に表現している。 (c) <ul style="list-style-type: none"> ・都市問題についての学習を通して身近な都市問題について主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。
2 学 期	12 月	6. エネルギー 資源の開発と限 界	教 科 書 ・	1	<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー資源はどのように開発されてきたのだろうか。 ・エネルギー資源の歴史を振り返るとともに、今後のエネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> (a) <ul style="list-style-type: none"> ・世界の一次エネルギー消費量について、p. 162 の地図からその特徴を読み取り、まとめることができている。

			地図帳		開発について考える。	(b) ・エネルギー問題と人口増加の問題との関連性を、多面的、多角的に考察している。 (c) ・身近なエネルギー消費について主体的に調べるなど、持続可能なエネルギー利用について意欲的に追究しようとしている。
2 学 期	12 月	7. 新たなエネルギー資源への取り組み	教科書・地図帳	1	○再生可能エネルギーの利用にはどのような課題があるのだろうか。 ・再生可能エネルギーの利点と課題について考える。	(a) ・再生可能エネルギーにはどのようなものがあるか、理解している。 ・ p. 164 の図や写真から、再生可能エネルギーの発電がさかんな地域を読み取ることができている。 (b) ・石油に代わる代替エネルギーの開発について、多面的・多角的に考察している。 (c) ・循環型社会の構築へ向けて、再生可能エネルギーについて学習したことを意欲的に社会生活に生かそうとしている。
2 学 期	12 月	8. 地球環境問題：地球温暖化	教科書・地図帳	1	○地球温暖化は私たちの暮らしにどのような影響を及ぼすのだろうか。 ・地球温暖化の将来にわたる影響について考える。	(a) ・地球温暖化により引き起こされる災害や社会問題について理解している。 (b) ・地球温暖化の影響について、先進国と発展途上国それぞれの立場から多面的・多角的に考察している。 (c) ・地球温暖化の要因や影響について主体的に追究し、地球温暖化防止のために学習したことを生かそうとしている。
2 学 期	12 月	9. 様々な場所で発生する地球環境問題	教科書・地図帳	1	○私たちが直面する地球環境問題にはどのようなものがあるのだろうか。 ・地球環境問題の発生と関わり方について考える。	(a) ・ p. 168 の地図を読み取り、様々な地球環境問題の世界的な分布を理解している。 (b) ・アクティブ p. 172-173 を活用して地球環境問題の要因と影響、その解決策について多面的・多角的に考察し、それらを適切に表現している。 (c) ・様々な地球環境問題と自分との関わりを主体的に追究しようとしている。

2 学 期	12 月	10. 地球的課題 の解決に向けた 国際協力	教 科 書 ・ 地 図 帳	1	○なぜ地球的課題を解決するた めに国際的な取り組みが必要なの だろうか。 ・地球環境問題に対する国際協力 について考える。	(a) ・様々な地球的課題の解決のために、 国際協力が行われてきた歴史を理解 している。 ・SDGs の目標を理解している。 (b) ・地球的課題を SDGs の達成目標と関連 させて多面的・多角的に考察してい る。 (c) ・地球的課題解決のために SDGs の達成 目標を主体的に追究し、自らの社会 生活に生かそうとしている。
第3編 持続可能な地域づくりと私たち						
3 学 期	1 月	1. 日本の自然 環境	教 科 書 ・ 地 図 帳	2	○日本の自然災害には、自然環境 がどのように関係しているのだ ろうか。 ・自然災害と日本の自然環境の関 係性を考える。	(a) ・日本で発生する自然災害について、日 本の自然環境の特徴と関連付けて理解 している。 ・地震や台風などの発生について、 p. 176-177 の地図を読み取り理解してい る。 (b) ・日本の自然環境の特徴を、世界と比較 して考察し、それらをレポート等で適切 に表現している。 (c) ・災害を引き起こす自然環境の特徴につ いて、主体的に追究しようとしている。
3 学 期	1 月	2. 地震・津波	教 科 書 ・ 地 図 帳	2	○地震や津波はどのような場所で 発生するのだろうか。 ・地震と津波の関係性を考える。	(a) ・地震の発生に伴って引き起こされる 被害について理解している。 ・地震の分布とプレートの分布の関連 性を理解している。 ・アクティブ p. 224-225 を活用し、津 波による浸水域と地形条件との関連 性を読み取ることができている。 (b) ・地震に関連して引き起こされる被害 の特徴について、それぞれレポート や発表等で適切に表現している。 (c) ・地震に関連して引き起こされる被害 について主体的に追究し、自らの生 活に大きく関係する被害について意 欲的に考察しようとしている。
3 学 期	1 月	3. 地震・津波 への対策	教 科 書 ・ 地 図 帳	2	○地震や津波の発生に備えてどの ような取り組みが行われている のだろうか。 ・それぞれの危険性の高い地域に よる取り組みと被害軽減策につ いて考える。	(a) ・日本で行われている津波や地震に対 する対策とその効果を理解してい る。 ・どのような対策が必要か、情報を収 集し、まとめることができている。 ・アクティブ p. 226-227 を活用し、地 震にともなう津波発生時の避難ルー

						<p>トを考えることができている。</p> <p>(b)・必要な対策について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。</p> <p>・アクティブ p. 226-227 を活用し、地震・津波対策の観点から協働的にその対策を考察し、それらを適切に表現している。</p> <p>(c)</p> <p>・地震に関連して引き起こされる被害について主体的に追究し、自らの生活に大きく関係する被害について意欲的に対策を検討しようとしている。</p>
3 学 期	1 月	4. 火山災害と対策	教科書・地図帳	2	<p>○火山活動によりどのような災害が発生するのだろうか。</p> <p>・火山活動により発生する災害について考える。</p>	<p>(a)</p> <p>・火山活動により引き起こされる被害を理解している。</p> <p>・火山被害の多い地域を、p. 182 の地図から読み取ることができている。</p> <p>(b)</p> <p>・必要な対策について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。</p> <p>・火山活動と社会生活の共存について、レポートや発表等で適切に表現している。</p> <p>(c)</p> <p>・火山活動による被害、恩恵の両面で自らの社会生活と深くかかわっている点について主体的に追究しようとしている。</p>
3 学 期	1 月	5. 風水害	教科書・地図帳	2	<p>○日本ではどのような風水害が発生するのだろうか。</p> <p>・風水害の発生要因と地域による被害の違いを考える。</p>	<p>(a)</p> <p>・大規模な風水害が発生する要因を理解している。</p> <p>・アクティブ p. 192 を活用して、洪水と地形の関係を読み取ることができている。</p> <p>(b)</p> <p>・地域によって異なる風水害の違いを多面的・多角的に考察し、レポートや発表等で適切に表現している。</p> <p>・アクティブ p. 192 を活用して、風水害の危険性について協働的に考察し、それらを適切に表現している。</p> <p>(c)</p> <p>・身近な地域で起こる風水害について、単元で学習したことを意欲的に社会生活に生かそうとしている。</p>
3 学 期	1 月	6. 風水害への対策	教科書	1	<p>○風水害を軽減するためにどのような対策が行われてきたのだろうか。</p>	<p>(a)</p> <p>・日本における様々な風水害対策の事例について、教科書等から必要な情</p>

			・ 地 図 帳		・風水害軽減のために行われている，地域による様々な工夫について考える。	<p>報を収集し，読み取り，まとめることができている。</p> <p>(b)</p> <p>・身近な地域で起こる風水害の特徴について協働的に考察し，それらを適切に表現している。</p> <p>(c)</p> <p>・身近な地域で起こる風水害について，その対策を主体的に追究し，単元で学習したことを意欲的に社会生活に生かそうとしている。</p>
3 学 期	1 月	7. 雪害・高温と対策	教 科 書 ・ 地 図 帳	1	<p>○雪害への対策にはどのようなものがあるのだろうか。</p> <p>・降雪や高温による社会生活への被害について考える。</p>	<p>(a)</p> <p>・日本における豪雪地帯の分布と，降雪量が多い要因について理解している。</p> <p>・日本の高温の状況について，教科書や様々な主題図から必要な情報を収集し，読み取り，まとめることができている。</p> <p>(b)</p> <p>・雪害や高温被害について生活者の視点や消費者の視点から多面的・多角的に考察し，レポートや発表等で適切に表現している。</p> <p>(c) ・雪害や高温被害について，自らの社会生活との関わりを主体的に追究し，学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。</p>
3 学 期	1 月	8. 防災・減災への取り組み	教 科 書 ・ 地 図 帳	2	<p>○自然災害による被害を軽減するためにどのような取り組みを行う必要があるのだろうか。</p> <p>・被害軽減のための取り組みについて考える。</p>	<p>(a)</p> <p>・防災・減災のための様々な取り組みについて必要な情報を収集し，まとめることができている。</p> <p>・アクティブ p. 194-195 を活用し，避難経路を示すことができている。</p> <p>(b)</p> <p>・アクティブ p. 194-195 を活用し，防災，減災について協働的に考察・構想し，それらを適切に表現している。</p> <p>・自助・共助・公助の取り組みについて問いを見だし，協働的に考察・構想し，それらを適切に表現している。</p> <p>(c)</p> <p>・自助や共助の取り組みについて主体的に追究して，学習したことを社会生活に生かそうとしている。</p>
3 学 期	1 月	1. 課題の発見と事前調査	教 科 書 ・	1	<p>○事前調査はどのような順序で進めればよいのだろうか。</p> <p>・地域調査の適切な進め方を考える。</p>	<p>(a)</p> <p>・調査の基本的な進め方について理解している。</p> <p>・調査テーマを決定する際に必要な情</p>

			地図帳			<p>報を収集し、読み取り、まとめることができている。</p> <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査テーマの決定に必要な情報を協働して多面的・多角的に考察し、仮説を表現できている。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した調査テーマについて主体的に追究して、調査を行おうとしている。
3 学 期	1 月	2. 現地調査	教科書・地図帳	1	<p>○現地調査を行う際は、どのように計画を立てたらよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地調査の適切な実施方法を考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説に対し、必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができている。 ・収集した情報を地図化するなど適切な方法で記録し、まとめることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査手法や記録方法を協働的に考察・構想し、適した方法で表現できている。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査の実施に際し、自らの役割に意欲的に取り組み、調査課題について主体的に追究し、課題を解決しようとしている。
3 学 期	1 月	3. 調査結果の整理	教科書・地図帳	1	<p>○調査結果はどのような方法でまとめればよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の効果的な整理方法を考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を地図や表にするなど、適切な方法でまとめることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査で得た情報を適切な方法で表現し、調査課題に対し協働的に考察している。 ・アクティブ p. 201 を活用し、複数の情報を1枚の地図に重ね合わせて表現し、考察している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果に対し、その表現方法について主体的に追究して、調査結果を意欲的に示そうとしている。
3 学 期	1 月	4. 調査結果の分析と考察	教科書・地図帳	1	<p>○調査結果は、どのように分析すればよいだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の分析方法について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を適切な手法で分析し、作成した地図等を読み取り、まとめることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査情報をグループ間で共有し、調査結果を協働して多面的・多角的に考察し、それらを適切に表現している。 <p>(c)</p>

						<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果とともに、新たな仮説や課題点について主体的に追究し、調査から得られた課題を意欲的に解決しようとしている。
3 学 期	1 月	5. 発表と報告	教科書・地図帳	1	<ul style="list-style-type: none"> ○調査結果をどこで、どのように発表すればよいだろうか。 ・調査結果の発表方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> (a) <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の報告に適した報告手法を選択できている。 (b) <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果について、発表手法に合わせて、適切な手段で表現している。 (c) <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の報告だけでなく、調査で得た情報をもとにより良い社会の実現を視野に意欲的に提言しようとしている。

計70時間

合計70時間

課程 全日制

教科	地歴	科目	日本史探求	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書		日本史探求『高校日本史』（山川出版社）							

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 日頃から歴史的事象に関心を持つとともに、「そこから何を学び取るか」を意識しよう。
- 歴史的事象と現代の諸課題との関わりを考察し、解決のあり方を探究しよう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	歴史的事象の意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
主な評価方法	・定期テスト（知識・技能にかかわる問題）の結果。	・定期テスト（思考・判断・表現にかかわる問題）の結果。 ・提出課題の記述内容。	・提出課題の記述内容。 ・授業中の発言内容や行動観察。

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
1学 期	4	第1章日本文化 のあけぼの	教科書・ 補助教材等	3	①氷河期にアジア大陸から現在の日本列島に人類が渡ってきて、その後渡来した人びとなどと混血をくり返し日本人が形成されたことを考察する。②遺跡・遺物など考古学上の知見をもとに、旧石器文化から縄文文化の時代の人びとの暮らしを考察する。 ③中国大陸から農耕とそれを支える文化要素が渡来し、日本に本格的な農耕文化が形成されたことを考察する。 ④農耕の発展によって私有財産と身分の差が生まれ、集落間の対立抗争からより広域を支配する権力が形成されたことを、遺跡・遺物の発掘や中国の文献から考察する。④狩猟社会から農耕社会への変化に着目して、時代を通観する問いを表現する。	(a) 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変化を、自然環境の変化や大陸からの影響に着目して理解している。(b) 遺物や遺構など考古学上の知見から、旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。(c) 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化・縄文文化の特色を明らかにしようとしている。
		歴史資料と原始・古代の展望		1	①中国の歴史書から読み取れる情報をもとに、日本列島の倭の小国やヤマト政権（倭国）と中国・朝鮮半島諸国との交流について、多面的・多角的に考察する。②古代社会の東アジアとの交流は、ヤマト政権や律令国家への展開に向けてどのように変化していったか、仮説を表現して展望する。 ③遺跡から出土した木簡の記載内容をもとに、文書主義を基本とする律令制下での中央・地方との関係や役	(a) 中国の歴史書の記事をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。(b) 中国の歴史書の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。(c) 日本列島における小国およびヤマト政権と中国・朝鮮半島などとの交流について考察することを通じて、古代の対外交流の実態を明らかにしようとしている。
						(a) 木簡の記録をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけ、歴史資料や遺構の保存・保全の努力が図られていることを理解している。(b) 木簡の特性を踏まえ、資

5	<p>第2章古墳とヤマト政権</p> <p>第3章律令国家の形成</p>	3	<p>所の動きについて、多面的・多角的に考察する。④古代の中央・地方をめぐる租税の物流や地方における漢字文化の広がりについて、仮説を表現して展望する。</p> <p>①ヤマト政権の成立と発展、中国大陸・朝鮮半島との関係について、各種金石文や文献から考察する。②古墳文化の特徴を前期・中期・後期のそれぞれについて考察するとともに、その時代の様子を古墳文化のさまざまな要素から考察する。③古墳時代の人びとの生活や信仰、渡来人のもたらした文化について考察する。</p> <p>④ヤマト政権の権力争いや大陸文化との関係の変化に着目し、推古朝の政治や外交について考察する。⑤飛鳥文化には中国大陸・朝鮮半島との交流の影響がみられることを理解する。</p>	<p>料を通して読み取れる情報から、古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。(c) 木簡を資料として活用し、律令国家における漢字文化の広がりについて主体的に考察しようとしている。</p> <p>(a) 中国大陸・朝鮮半島との関係に着目し、渡来人のもたらしたものが現在の日本文化の基層にあることを理解している。(b) 諸資料を収集して分析し、ヤマト政権の発展や古墳文化の特色について、多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成と連合について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。</p> <p>(a) 推古朝の政治や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。(b) 仏教の受容や遣隋使・遣唐使の派遣などの大陸との交流について、諸資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。(c) 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、推古朝の政治や飛鳥文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。</p>
		4	<p>①大化の改新や律令国家が成立するまでの政治過程について、東アジアの変動を踏まえて考察する。②律令国家の仕組みや、律令制が日本の歴史に与えた影響について理解する。</p> <p>③日本と東アジアとの関係について、使節や留学生・僧の往来に着目して考察する。</p> <p>④奈良時代の政治の流れを理解し、その背景について考察する。</p> <p>⑤律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察す</p>	<p>(a) 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響や、律令制の形成を中心に大化の改新以降の政治過程を理解している。(b) 律令体制について、政治や地方の動向なども踏まえて多角的に考察し、表現している。(c) 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。</p> <p>(a) 平城京における律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。(b) 文献資料をもとに、諸勢力の対立と土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。(c) 平城京における政治史の流れに着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特</p>

6	第4章 貴族政治の展開	2	<p>る。⑥律令国家の繁栄を背景に成立した天平文化について、国家鎮護を目的とした国家仏教や唐の影響を強くうけた美術や絵画の特色に着目して考察する。</p> <p>⑦桓武・嵯峨天皇による律令制度の建て直しと、その後の政治制度の変質について考察する。⑧密教の広まりや、神仏習合などの仏教の日本化が進んだこと、さらに弘仁・貞観文化の特色について考察する。⑨南九州と隼人とよばれる人びとが、律令国家に組み込まれていく経緯について、その背景も踏まえて考察する。</p> <p>①9～10世紀にかけての藤原北家の勢力拡大や、律令制支配の衰退と地方支配の仕組みの変質が中世的な世界を生み出していくことについて考察する。②東アジアの変動が、日本の対外関係に与えた影響を考察する。</p> <p>③国風文化の成立について、東アジア社会の変動と関連させて考察するとともに、国風文化が日本の伝統文化に与えた影響について考察する。④浄土信仰という仏教の新しい動きについて、その社会的な背景とともに考察する。</p> <p>⑤寄進地系荘園の成立など土地制度が変化したことについて考察する。⑥棟梁を中心とした大武士団が成立して</p>	<p>色を理解している。(b) 盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。(c) 隋・唐などの中国王朝から受容した文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。</p> <p>(a) 平安初期の政治とその後の律令体制の変容について、蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて理解している。(b) 桓武天皇や嵯峨天皇の政策に着目して、律令制の変容について考察し、表現している。(c) 東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 藤原北家の発展過程や地方支配の変化を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。(b) 地方支配の変化に着目し、奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特質とその後の展開について考察し、根拠を示して表現している。(c) 唐の衰退による東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。</p> <p>(a) それまで吸収してきた中国文化をふまえて国風文化が形成されたことを理解する。浄土信仰が広まった背景について、諸資料から当時の人びとの心のありようを読み取る技能を身につけている。(b) 国風文化の形成について、国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえて考察し、かなの成立などが、後の日本文化におよぼした影響について考察し、表現している。(c) 摂関時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。</p> <p>(a) 武士団の仕組みや武士の反乱、成長などに着目して、律令体制や地方社会の変容を理解している。(b) 土地制度の変化について、史料を読み取りながら考察し、根拠を示して表現している。(c) 国司や地方支配の在り方の変化、</p>
---	-------------	---	---	--

2学期	7	第5章院政と武士の進出	2	<p>いく過程や、次第に政治的な力を持つようになったことについて考察する。⑦東北地方と蝦夷とよばれる人びとが、律令国家に組み込まれていく経緯と、奥州藤原氏が特産品や交易によって繁栄したことについて考察する。</p> <p>①外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。②院政がどのように成立し、展開したのか、古代から中世への歴史の転換と関連づけて考察する。</p> <p>③院の信任を得て台頭した平氏が、保元・平治の乱を通じて勢力を拡大し、政権を獲得した過程を考察し、また、その政権基盤や特色などについて考察する。④院政期に、どのような文化が形成され、広まったかについて考察する。⑤古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。⑥文化財とは何かを理解するとともに、保存・公開、施設の果たす役割に注目し、文化財保護について考察する。</p>	<p>武士の出現など、地方の諸勢力の成長が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。</p> <p>(a) 貴族政治や土地支配の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。(b) 武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。(c) 中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。</p>
		歴史資料と中世の展望	1	<p>①政治や文化の中心であった中世の京都を描いた絵画作品から、情報を収集して読み取る技能を身につける。②資料から適切に読み取った情報をもとに、中世の特色についての仮説を表現して展望する。</p>	<p>(a) 3つの絵画を比較して、様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、歴史資料の保存・保全の努力が図られていることを理解している。(b) 複数の絵画資料に描かれている中世の都大路の様子を比較した結果について、時代を通観する問いを踏まえて考察し、仮説を表現している。(c) 中世の京都を描いた絵画資料から得られる情報をもとに、中世社会の特色について主体的に課題を見出そうとしている。</p>

	<p>第6章武家政権の成立</p>	4	<p>①平氏の滅亡、鎌倉幕府成立の経過や幕府の支配機構、将軍と御家人との主従関係、公武的二元支配構造などについて理解する。②北条氏の台頭から、執権政治を確立していく過程について理解する。③地頭・荘官として荘園・公領の支配をしつつ、戦時には一族を率いて戦った御家人の生活と御家人による地域支配について土地制度の仕組みを踏まえ考察する。</p> <p>④モンゴル襲来（元寇）の国際的な背景と、それに対する幕府や朝廷の対応を理解する。⑤モンゴル襲来後の御家人の窮乏と、徳政令発布などの幕府の対応、御家人の反発による幕府政治の動揺を考察する。</p> <p>⑥武家政権成立期の文化の特色を、国際関係を踏まえて考察する。⑦時代の要請にこたえた新しい仏教の成立や、それに刺激を受けた旧仏教の改革の動きなど宗教界の動向を踏まえ、建築・彫刻などの芸術の分野や文学にも、時代の変化に対応した新しい傾向がみられるようになったことを理解する。</p>	<p>(a) 諸資料から情報を読み取り、源平の争乱から執権政治確立までの歴史過程、封建制度の成立、鎌倉幕府と朝廷による二元的支配の構造、執権政治の特質、御家人の特質やその地域支配について理解している。(b) 幕府と朝廷の二元的支配構造の特色と、その関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。(c) 鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成、公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。(b) 鎌倉時代の農業・商工業の発達による社会の変動や御家人の窮乏について多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 公武関係の変化やユーラシアとの交流と文化への影響に着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。(b) 宋・元との交流の窓口や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流と文化への影響を多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 武家政権成立期の宗教や文化にみられる特色を、平安時代と比較しながら主体的に追究しようとしている。</p>
8	<p>第7章武家社会の成長</p>	6	<p>①鎌倉幕府の滅亡や建武の新政、新政に対する武士や民衆の反発について考察する。②建武の新政が崩壊し、南北朝の動乱のなかで守護大名、国人一揆などの新たな地域権力が形成されたこと、室町幕府の成立と体制について理解する。③琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本</p>	<p>(a) 鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球やアイヌの文化の形成などについて、諸資料から情報を収集して理解している。(b) 南北朝の動乱と日本列島の地域社会の変質や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代のつながりから、この時期の政治や社会の特質を見出そうとしている。</p>

9	第8章近世の幕開け	2	<p>にもたらした影響について理解する。</p> <p>④農民が自治組織を形成し、一揆を結び、それが次第に村を越えて結びつき、徳政を求める土一揆へと発展していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。</p> <p>⑤諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。</p> <p>⑥公家や武家、庶民などの文化の形成や融合を踏まえて、日本の伝統文化の原型が形成された室町期の文化的な特色について考察する。</p> <p>⑦室町時代の時期ごとの芸術・宗教の特色や、それらが庶民や地方へ広がっていったことを考察する。</p> <p>⑧応仁の乱以降、地域権力として成長した戦国大名や、各地で発展した都市と、産業や流通の成長や、自治的に都市を運営した人びとの活動について、諸地域の地理的条件などと関連づけて考察する。</p> <p>⑨琉球の文化の形成と地理的特性を理解し、琉球王国の成立と繁栄の国際的な背景を考察する。</p> <p>①銀の交易や鉄砲とキリスト教の伝来を、大航海時代の展開に関連させて世界史的視野で考察し、中世から近世への時代の転換を理解する。</p> <p>②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一の過程を把握し、織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。</p> <p>③豊臣政権の村落や都</p>	<p>(a) 諸産業や流通、地域経済が成長したことに着目し、諸資料から情報を読み取り、庶民が台頭し自治の村が成立したことを理解している。(b) 一揆が形成され広まった背景や一揆の構造について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを踏まえ多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 室町時代に成立した村の自治と現代社会における自治との共通点や相違点など、自身との関わりにおいて課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 室町時代における多様な文化の形成や融合について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。(b) 室町文化と、当時の政治や経済の動向、各地の村落や都市の発達、東アジアとの交流との関係を多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。(c) 室町文化の特徴について、鎌倉時代や現代との比較を通じて類似点や差異を見出そうとしている。</p> <p>(a) 諸資料から守護大名と戦国大名の相違点などの情報を読み取り、戦国大名の領国統治の特徴を理解している。(b) 堺や博多などの都市の発展と、それを支えた商人などの活動について多面的・多角的に考察し、戦国時代の地域の多様性を考察し、表現している。(c) 15～16世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。(b) 織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現しようとしている。</p> <p>(a) 安土桃山時代の文化が幅広い国際</p>
---	-----------	---	--	---

	1 0	<p>歴史資料と近世の展望</p> <p>第9章幕藩体制の成立と展開</p>	<p>1</p> <p>9</p>	<p>市の支配、対外政策から、中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。④新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、さまざまな文化財をもとに時代的背景を踏まえて考察する。</p> <p>①朝鮮通信使に関するさまざまな資料から、情報を収集して読み取る技能を身につける。②資料から適切に読み取った情報をもとに、近世の特色についての仮説を表現して展望する。③被災文化財の救援や修復の事例をもとに、身近な地域の文化財やその保護について考察する。</p> <p>①江戸幕府が法や制度の整備の下で、経済的にも軍事的にも圧倒的な力で全国支配を実現し、幕藩体制を確立したことについて理解する。②幕藩体制の確立期の社会を、身分制の仕組みや村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。</p> <p>③幕府がキリスト教禁教と「鎖国」政策を展開した要因について考察し、「鎖国」の意義と「鎖国」体制下の四つの窓口を通じた対外関係を理解する。④寛永期の文化を、幕藩体制成立の時代背景を踏まえて理解する。</p> <p>⑤17世紀後半から18世紀前半の江戸幕府の安定期について、その平</p>	<p>性を持ちつつ、生活文化のなかにとけ込んでいったことについて、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。(b) 豊臣政権による朝鮮出兵から、対アジア認識を含め一連の政策のもたらした影響について多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 豊臣政権の政策が村落・都市や対外政策に与えた影響を多面的・多角的に追究しようとしている。桃山文化の特徴について、アジア各地のヨーロッパ諸国との交流などに着目して、主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 諸資料から朝鮮通信使が定着していった経過を適切に読み取り、朝鮮、江戸幕府それぞれの立場で考察し、東アジアの情勢のなかで理解している。(b) 国際環境の変化のなかで朝鮮通信使が定着していくことをもとに、江戸時代の特徴を多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。(c) 豊臣政権の朝鮮侵攻を踏まえ、江戸時代のアジア政策はどのように変わったのかについて課題を見出し主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。(b) 織豊政権下における社会の仕組みと幕藩体制下とを比較・考察して、幕藩体制の特質について多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 織豊政権と幕藩体制の社会の仕組みを比較・考察しながら、幕藩体制が確立する画期について、主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 桃山文化を受け継ぎながらも新しい武家社会の到来を示す寛永期の文化が成立したことについて、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。(b) アジアの国際情勢の変化に着目して、江戸幕府による貿易統制、禁教の徹底や、琉球・朝鮮・蝦夷地との交易などについて多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 江戸幕府の鎖国政策について、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について、主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 諸資料から情報を適切に読み取り、文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治に至る推移について理解して</p>
--	-----	--	-------------------	---	--

1 1	第10幕藩体制の動揺	5	<p>和と秩序の確立の視点で考察する。⑥諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。</p> <p>⑦新田開発や農業技術の進歩により、農業生産がめざましく発達したことを、具体的事例をもとに考察する。⑧交通の整備が進み、全国規模の流通網が発達した様子や、近世の金融制度の特徴を理解し、商業の発展と大都市の形成について考察する。</p> <p>⑨元禄期の経済発展と幕政の安定を背景に、上方の豪商を中心に町人文化が形成されたことを理解する。⑩儒学の特色を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。⑪アイヌの文化の形成と地理的特性を理解し、和人との関係の推移や、交易の実態を考察する。</p> <p>①幕府の財政が悪化するなかで実施された享保の改革や田沼意次の諸政策とその影響を考察する。②宝暦・天明期の学問・思想、庶民を担い手とした新たな文学や美術などについて、社会の変容や幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。</p> <p>③寛政の改革に乗り出した松平定信の諸政策について、飢饉や一揆の発生を踏まえ考察する。④ロシア、イギリスなどの列強の接近に対し、「鎖国」体制維持のために幕府がおこな</p>	<p>いる。(b) 戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人びとの生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 幕藩体制が安定していくなかで、江戸幕府の諸政策が人びとの暮らしへもたらした影響について、主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 産業の発達と多様化、交通の整備や貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、都市の経済的繁栄に関わる諸資料から情報を読み取り、技術の向上と開発の進展について理解している。(b) 陸上・水上における交通や流通の発達と、農業・工業・商業などの発達との関連を多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。(c) 近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。</p> <p>(a) 都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、17世紀の文化の特徴などについて、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。(b) 近世前期における幕府の統治政策や藩財政の推移と文化との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 幕藩体制が安定していくなかでの経済の動向と上方の豪商との関係性を踏まえ、17世紀の文化の特色を明らかにしようとしている。</p> <p>(a) 産業の発達、飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などに着目して、幕藩体制の変容や宝暦・天明期の文化の特色を理解している。(b) 商品作物の栽培や貨幣経済の浸透により、米作を基盤とする幕藩体制が動揺する過程を踏まえ、飢饉や一揆の発生が幕藩体制に与えた影響を考察し、表現している。(c) 幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、幕府権力が衰退する一方で工場制手工業など近代の萌芽がみられ、雄藩が出現する過程を理解している。(b) 国際情勢の変化と影響などに着目して、幕藩体制の動揺について多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現</p>
-----	------------	---	---	--

		<p>第11章近世から近代へ</p>	<p>2</p>	<p>った諸政策について考察する。⑤国際情勢の変化と影響に着目し、幕府権力がおこなった天保の改革と、藩政改革に成功した雄藩の改革について考察する。⑥化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術の新たな展開に着目し、都市の民衆を中心とする芸能や生活文化の特色を理解するとともに、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。⑦身近な地域にある記念碑の調査を事例に、地域の歴史や文化について考察する。</p> <p>①対外政策の変容と開国に至る動き及び締結された条約の不平等性について考察する。②貿易の実態とその影響による経済の混乱について考察する。</p> <p>③討幕運動と尊王攘夷、江戸幕府滅亡、新政府の発足に至る過程を理解し、どのような国家が構想されたか考察する。④近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。</p>	<p>している。(c) 飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 政治・経済と文化の関係などに着目して、近世後期の庶民の生活と文化の特色について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。(b) 近世の前半と後半を比較し、文化への影響力をもつ地域や担い手の変化をもたらした原因について多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性について、学問・教育・出版文化や庶民文化を事例としてつながりを見出そうとしている。</p> <p>(a) アジア諸国の変化や貿易開始に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯や貿易のおよぼした影響などを理解している。(b) 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化に着目して、日本の政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政府の成立について理解している。(b) 日本がどのような契機によって近代の国家・社会へと向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。(c) 幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。</p> <p>(a) 議会の成立、選挙権の拡大、民衆の抗議運動に関する諸資料から戦前と戦後を比較して、近代以降の政治の流れを読み取っている。(b) 選挙権の範囲の拡大と民衆の抗議運動の発生から、近代・現代の議会の役割はどのように変化したかを考察し、仮説を表現している。(c) 時代を通観する問いを踏まえ、議会の役割と選挙権を通してみえる日本の近代・現代の歴史の展開につ</p>
		<p>歴史資料と近代・現代の展望</p>	<p>1</p>	<p>①議会の役割と選挙権の拡大について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につける。②諸資料から適切に読み取った情報をもとに、近代・現代の政治・社会について仮説を表現して展望する。</p>	

3学期	12	第12章近代国家の成立		<p>③日本の生糸の生産と貿易の動向から、情報を収集して読み取る技能を身につける。④諸資料から適切に読み取った情報をもとに、近代・現代の日本の産業の在り方や課題について仮説を表現して展望する。</p> <p>①明治維新の諸政策、特に廃藩置県・地租改正・富国強兵・殖産興業政策を通して、日本の近代化の特徴について考察する。②欧米の文化・思想の導入や近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。③明治初期の外交政策から、対欧米外交と、対朝鮮・清外交の違いについて考察する。</p> <p>④自由民権運動を通じて民衆意識も近代化していったこと、また運動の変容や地域社会の変化について考察する。⑤大日本帝国憲法制定の意義や憲法の性格を、多角的に考察する。⑥資料調査の体験を通して、歴史資料と主体的に向きあい、文化財を守り伝えることの意義を考察する。</p>	<p>いて、展望しようとしている。</p> <p>(a) 開国以降の日本の貿易において、生糸の生産と輸出の振興をはかる経済政策がとられた背景を諸資料から読み取っている。(b) 近代・現代における生糸の生産・輸出入の変化から、その背景に何があったかを考察し、日本の産業の変化について仮説を表現している。</p> <p>(c) 時代を通観する問いを踏まえ、近現代において日本の生糸生産がもつ意味の変化について、主体的に追究しようとしている。</p>
1		第13章近代国家の展開と国際関係		<p>①明治維新の諸政策、特に廃藩置県・地租改正・富国強兵・殖産興業政策を通して、日本の近代化の特徴について考察する。②欧米の文化・思想の導入や近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。③明治初期の外交政策から、対欧米外交と、対朝鮮・清外交の違いについて考察する。</p> <p>④自由民権運動を通じて民衆意識も近代化していったこと、また運動の変容や地域社会の変化について考察する。⑤大日本帝国憲法制定の意義や憲法の性格を、多角的に考察する。⑥資料調査の体験を通して、歴史資料と主体的に向きあい、文化財を守り伝えることの意義を考察する。</p> <p>①条約改正が国民の大きな関心を集めた背景と、条約改正が実現した諸条件について考察する。②日清戦争に至る経緯、下関条約と三国干渉の結果が国民におよぼした影響について考察する。③日英同盟から日露戦争に至る経緯、戦後の日本の国際的地位の変化と対外進出について、諸外国の動向と関連づけて考</p>	<p>(a) 明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。(b) 諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。(b) 国内体制を欧米の水準に合わせる事が改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 日清・日露戦争の前後における条約改正の実現、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。(b) 議会が戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。(c) 対外的な戦争が日本の近代化の過程のなかでもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。</p>

		<p>第14章近代の産業と生活</p>	<p>2</p>	<p>察する。</p> <p>④第一次世界大戦中の日本の東アジアにおける動き、これに対する各国の反応とその後の展開について考察する。⑤大正デモクラシーと本格的な政党内閣の成立の経緯を理解し、国民の政治参加の拡大について多角的に考察する。</p> <p>⑥ヴェルサイユ体制と、その後の国際協調の動きを理解し、そのなかで日本の軍縮や協調外交がどのように展開されたか考察する。⑦不況のなかで社会運動が高揚し、普選運動など政党政治の発展から二大政党による「憲政の常道」に至るまでの意義について考察する。</p> <p>①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。②近代産業の発展にともなう労働問題・公害問題の発生と政府の対応や労働運動の展開を考察する。</p> <p>③西洋文化の積極的な流入と、伝統的な文化が接触し近代文化が成立したことに着目し、欧米思想の影響や生活の変化について考察する。④義務教育の普及・定着とともに、国家主義的傾向が浸透していくことを理解する。</p> <p>⑤労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目</p>	<p>(a) 第一次世界大戦前後の国民の政治参加に着目して、大正政変や米騒動、政党内閣の成立について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。(b) 大戦中の日本の動向を踏まえ、アジアや欧米諸国との関係がどのように変容したのか、しなかったのかを多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</p> <p>(a) ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。(b) 大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。(b) 地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 産業の発展とそれによって発生した社会問題への対応について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究の風潮、欧米の科学技術の導入、教育の普及・拡充について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。(b) 学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。(c) 明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することを通じて、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 学問・芸術・出版・マス＝メディアの発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わりとその浸</p>
--	--	---------------------	----------	--	--

	<p>第15章 恐慌と第二次世界大戦</p>	6	<p>し、産業構造の変化や都市化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。⑥大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マス＝メディアの発達について理解する。</p> <p>①第一次世界大戦後の長引く不況から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。②内外情勢の変化に着目し、強硬外交の展開や、ロンドン海軍軍備制限条約が統帥権干犯問題に発展した経緯などについて考察する。</p> <p>③日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。④恐慌から脱出し、国家主義が高揚するなかで、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。</p> <p>⑤日中戦争から太平洋戦争に至る過程や戦争の長期化について、国民生活の変化や諸統制に着目して、全体主義的な国家体制が進展していく経緯を考察する。⑥太平洋戦争の開戦に至る日米関係や戦争の展開、終戦までの経緯について、国民生活への影響や国際情勢を踏まえて考察する。</p>	<p>透度、社会風潮との関連を理解している。(b) 工業国化や都市化と大衆化の発達などを踏まえ、市民生活と地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。(c) マス＝メディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、世界的な経済恐慌のもと、国内の経済対策と経済の動揺などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。(b) ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。(c) 当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人びとの議論について考察したりして、課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。(b) 当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。(b) 戦争がアメリカやイギリスなどの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。(c) 日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。</p>
2	<p>第16章 現代の世界と日本</p>	7	<p>①連合軍の日本占領の目的が非軍事化と民主化であったことを踏まえ、目的に沿ってどの</p>	<p>(a) 第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革</p>

		<p>3</p> <p>現代日本の課題の探求</p>	<p>1</p>	<p>ような政策が展開されたのかを理解し、諸政策がその後の日本社会にどのような影響をもたらしたのか、考察する。</p> <p>②国際情勢の変化と関連づけて、アメリカが日本の国際社会への復帰を推進し、日米安全保障条約による新たな日米関係が成立したことを考察する。</p> <p>③冷戦構造のなかで日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。</p> <p>④朝鮮特需と高度経済成長政策の下で、国民生活は豊かになった反面、公害などの社会問題が発生したことについて考察する。</p> <p>⑤1970年代の米中の国交正常化、ベトナム戦争の終結、第4次中東戦争による石油危機などの情勢の下、日本が外交的には中国との国交正常化を実現し、高度成長路線を修正しながら引き続き経済成長を維持しようとしたことについて考察する。</p> <p>⑥1980年代末以降、冷戦終結によって、東欧を中心に大きな変動がおり、国際政治の枠組みが大きく変化したことを理解する。</p> <p>⑦日本は深刻な不況が長引いて、さらに、環境問題やエネルギー問題などさまざまな解決すべき問題を抱えていることについて考察する。</p> <p>①現代の日本が直面する課題のなかで、東京の祭礼、選挙、果物生</p>	<p>について理解している。(b) 地域社会の変容にも留意しながら、占領前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を、根拠を明確にして表現している。(c) 連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、現代の日本との関係性を踏まえながら、主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯や、戦後の日本経済の成長や、高度成長期の国民生活や地域社会の変化について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。(b) 外交事案がもたらした課題や日本の経済復興や高度成長、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。</p> <p>(c) 55年体制の歴史的意義や、1960年代における保守政権の安定化を考察し、高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返り、国内政治・経済の課題を主体的に見出そうとしている。</p> <p>(a) 世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったこと、冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。(b) 日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因や、国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。(c) 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、課題を見出して主体的に追究しようとしている。</p> <p>(a) 諸資料を読み解いて得られた情報をもとに、現代日本の課題の形成に関わる歴史を理解している。(b) 現代日本</p>
--	--	----------------------------	----------	--	---

				<p>産と貿易に着目して、諸資料から情報を読み取って考察し、それを表現する方法を学ぶ。</p> <p>②事例を参考に、自ら適切な主題を設定して歴史を探究し、表現する。</p>	<p>の課題について、既習知識と結びつけて多面的・多角的に考察し、表現している。(c) 自ら主題を的確に設定し、資料を適切に読み取ったうえで複数の解釈を比較・検討・選択し、十分な論理展開で叙述・表現している。</p>
--	--	--	--	---	--

合計 70 時

課程 全日制

教科	公民	科目	政治経済	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書		最新政治・経済（実教出版）							

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。 ・国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。 ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国の平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<ul style="list-style-type: none"> ○ 日頃から時事的な課題に関心を持つとともに、自分なりの論点を見いだすよう努めよう。 ○ 客観的な資料に基づいて諸課題を考察し、解決のあり方を探究する態度を身に付けよう。
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び、政治・経済に関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断して、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
主な評価方法	・ペーパーテスト（知識・技能にかかわる問題）の結果。	・ペーパーテスト（思考・判断・表現にかかわる問題）の結果。 ・提出課題の記述内容。 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察。	・授業中の発言内容や行動観察。 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容。

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学 期	月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学 期	4	第1編章 民主政治と法	教科書・ 補助教材等		○政治とは何か。国家とは何か。法の意義と役割とは何か。近代民主政治は、どのようにして成立したのだろうか。 ・政治、国家、法のあり方について考える。	・政治と国家、政府が何であるかを理解している。・法の意義と役割のほか、法の分類についても理解している。(a) ・政治とはどのような営みか、自身の身近な事例にも言及しながら考察し、適切に表現している。(b) ・国民主権を担う公民としての自覚をもとに、民主政治のあり方や法の意義などについて主体的に理解・追究しようとしている。(c)
		第1編章 民主政治の基本原理			○社会契約説とは何か。法の支配とは何か。基本的人権の保障はどのように拡大していったのだろうか。 ・基本的人権の歴史的発展や法の支配について理解する。	・社会契約の考え方について理解しているとともに、ホッブズ、ロック、ルソーの考え方の共通点・相違点を p. 10 の表から読み取り、理解している。・基本的人権の歴史的発展について理解している。・法の支配や立憲主義について理解している。(a) ・基本的人権や法の支配の重要性について、歴史的背景にも言及しながら考察し、それらを適切に表現している。(b) ・国民主権を担う公民としての自覚をもとに、基本的人権や法の支配の重要性などについて主体的に理解・追究しようとしている。(c)
		第1編章 民主政治のしくみと課題			○国民主権とは何か。議会制民主主義とは何か。権力分立と立憲主義はなぜ重要とされているのだろうか。 ・民主政治のしくみと課題を理解したうえで、権力分立と立憲主義の重要性を理解する。	・民主政治のしくみと課題を理解している。・権力分立と立憲主義について、その重要性を理解している。(a) ・多数決の長所と短所について、自身の身近な事例にも言及しながら協働的に考察し、適切に表現している。(b) ・国民主権を担う公民としての自覚をもとに、民主政治の課題について主体的に理解・追究しようとしている。(c)
		第1編章 世界のおもな政治制度			○世界の国々が採用している議院内閣制と大統領制には、民主政治の諸原理がどのように反映されているのだろうか。 ・p. 8～13 の振り返りや、p. 14 の図1・2、p. 15 の図5・6 の読み取りを踏まえ、各政治制度の特徴を理解する。	・議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度の特徴について、民主政治の諸原理にも着目しながら理解している。・各国の政治制度に関連する諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。(a) ・各国の政治制度の共通点・相違点について、立法府と行政府に着目しながら比較・考察し、適切に表現している (p. 15/ Try)。(b) ・国民主権を担う公民としての自覚をもとに、現実の政治制度に関する課題について主体的に理解・追究しようとしている。(c)

1 学 期	5	<p>第1編2章1 日本国憲法の 成立</p> <p>第1編2章2 日本国憲法の 基本原理</p> <p>第1編2章3 自由に生きる 権利 (1)</p> <p>第1編2章4 自由に生きる 権利 (2)</p> <p>第1編2章5 平等に生きる 権利</p> <p>第1編2章6 社会権と参政 権・請求権</p> <p>第1編2章7 新しい人権</p> <p>第1編2章8 人権の広がり と公共の福祉</p>		<p>○日本国憲法はどのよう にして制定されたのか。 明治憲法とはどのような 違いがあるのだろうか。 日本国憲法の三大基本原 理とは何か。憲法改正と は何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の成立過程 を踏まえつつ、明治憲法 との違いを理解する。 ・日本国憲法の基本原則 を理解したうえで、憲法 の改正手続きについて考 える。 <p>○自由権とは何か。日本 国憲法が保障する基本的 人権のうち、精神の自由 にはどのような自由があ るのだろうか。</p> <p>○自由権が制限されるの は、どのようなときか。自 由権をめぐる問題とさ れているのはどのような ことだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由権の内容について 理解する。 <p>○法の下での平等とは何 か。現代社会にはどのよ うな差別があり、どのよ うな対処がなされている のだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由権の内容について 理解する。 <p>○社会権にはどのような 権利があり、どのように 保障されているか。また、 参政権、請求権とは どのような権利だろう か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会権の内容について 理解する。 <p>○新しい人権は、どのよ うな社会の変化のなかで 求められてきたか。どの ような権利が主張されて いるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい人権について理 解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の成立過程を理解してい る。・二つの憲法の原理と相違点につい て、p.18やp.20のCheckを通じて理解して いる。・憲法改正とその限界について、 p.21のQ&Aも踏まえながら理解してい る。・諸外国の憲法に関連する諸情報を信 頼性の高い情報源から収集し、知識の補強 といった形で適切に扱うことができている。 (a) ・日本の憲法改正手続きについて、p.21の Q&Aも踏まえながら、その運用上の課題につ いて協働的に考察し、適切に表現している (p.21/Try)。(b) ・憲法の最高法規性や日本国憲法の原理、 改正手続きなどについて主体的に理解・追 究しようとしている。・日本国憲法の三大基本 原理が私たちの人権や政治に果たしている 役割について関心を高め、主体的に追及し ようとしている。(c) ・自由権・平等権・社会権などの諸権利の 内容について、各種判例やQ&A(p.22, p.25, p.26, p.27, p.28)も踏まえながら 理解している。・冤罪や死刑制度、さまざまな 差別、生存権の保障など、人権に関する現 実社会の課題について理解してい る。・自由権・平等権・社会権と関連する判例 (教科書掲載外の判例)を信頼性の高い情 報源から収集し、それぞれ適切に分類・ 整理したうえで、知識の補強といった形で 適切に扱うことができている。(a) ・自由権、平等権、社会権について、各種 判例や自身の身近な事例などと結びつけ ながら協働的に考察し、適切に表現してい る。・日本国憲法における人身の自由につ いて、p.23のCheckを利用して考察し、適切に 表現している。・死刑制度の是非について、 p.24の図2を利用して、協働的に考察し、適切 に表現している。・差別を解消すべき理由につ いて、『公共』で学んだ 「人間の尊厳」や「個人の尊重」といった 視点に立ちながら、適切に表現してい る。・社会権の保障(すべての人が人間らし い生活を送れるようにするために国がすべ きことは何か、など)について、協働的に 考察し、適切に表現している。(b) ・基本的人権が保障されていることの意義 を知り、関心が高まっている。また、たと えば平等権と社会的な差別の諸課題につ いて多面的かつ主体的に考察し、よりよい社会 の実現を視野に、学習したことを社会の改 善に生かそうとしている。(c) ・環境権・知る権利・プライバシーの権利な どの新しい人権の内容とそれらの権利が主 張されるようになった背景について理解し ている。・p.31のクローズアップを通じて、 情報化社会における人権について理解し ている。 ・社会的権力による人権侵害の課題や人権
-------------	---	--	--	--	---

1 学 期		<p>第1編2章 新しい人権</p> <p>第1編2章8 人権の広がり と公共の福祉</p>		<p>○人権保障をめぐる課題にはどのようなものがあるだろうか。人権と人権が衝突した場合、どのように調整すべきなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共の福祉について理解する。 <p>○新しい人権は、どのような社会の変化のなかで求められてきたか。どのような権利が主張されているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい人権について理解する。 <p>○人権保障をめぐる課題にはどのようなものがあるだろうか。人権と人権が衝突した場合、どのように調整すべきなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共の福祉について理解する。 	<p>の国際化の動き、公共の福祉について理解している。・公共の福祉の具体的な事例を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。</p> <p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知る権利の内容理解を踏まえたうえで、「忘れられる権利の是非」について多面的に考察し、適切に表現している。・現実社会の問題の解決と個人の権利との調整について、生徒みずから調べて収集した具体的な事例にもとづきながら協働的に考察し、適切に表現している。・在日外国人の権利について、p. 33の時事コラムを踏まえたうえで協働的に考察し、適切に自分の考えを表現している。(b) ・新しい人権について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。・公共の福祉について主体的に追究することを通して、個人と個人の権利の衝突を調整の方法を社会生活に生かそうとしている。(c) <p>・環境権・知る権利・プライバシーの権利などの新しい人権の内容とそれらの権利が主張されるようになった背景について理解している。・p. 31のクローズアップを通じて、情報化社会における人権について理解している。・社会的権力による人権侵害の課題や人権の国際化の動き、公共の福祉について理解している。・公共の福祉の具体的な事例を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知る権利の内容理解を踏まえたうえで、「忘れられる権利の是非」について多面的に考察し、適切に表現している。・現実社会の問題の解決と個人の権利との調整について、生徒みずから調べて収集した具体的な事例にもとづきながら協働的に考察し、適切に表現している。・在日外国人の権利について、p. 33の時事コラムを踏まえたうえで協働的に考察し、適切に自分の考えを表現している。(b) ・新しい人権について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。・公共の福祉について主体的に追究することを通して、個人と個人の権利の衝突を調整の方法を社会生活に生かそうとしている。(c) <p>・日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制がうまれた背景について理解している。・p. 35のCheckを通じて、自衛権に関する政府解釈の変化を読み取ることができている。・1990年代以降の安全保障体制の変容とこんにちの課題について理解している。・p. 39のQ&Aを利用して、集団的自衛権について多面的に理解している。・日本の安全保障をめぐる現状と課題、自衛隊の海外活動の現状といった諸情報を信頼性の</p>
	<p>第1編2章9 平和主義と自衛隊</p> <p>第1編2章10 日米安全保障体制の変化</p>		<p>○平和憲法のもと、どのようにして自衛隊は創設され、活動範囲をひろげてきたのか。その背景とは何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障政策の展開について理解する。 <p>○日米安全保障体制の役割は、どのように変化しているのか。沖縄がかか</p>		

1 学 期	6	<p>第1編2章1 21世紀の平和主義</p>		<p>えている課題とは何だろうか。</p> <p>○有事法制とは何か。徹底した平和主義をかかげる日本が、今後、世界で求められることは何だろうか。</p> <p>・こんにちの安全保障政策の課題について理解する。</p>	<p>高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。(a)</p> <p>・防衛関係費と社会情勢との関係について、p. 34のCheckを利用して、多面的に考察している。・p. 35の表5の内容理解を踏まえたうえで、「自衛のための必要最小限度の実力はどのように限界づけられるのか」といった議題について多面的に考察し、適切に表現している。・沖縄の基地問題について、p. 37の時事コラムを利用して協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。(b)</p> <p>・集団的自衛権について関心が高まっており、集団的自衛権が他国との関係でどのような影響を及ぼしうるかについて主体的に検討しようとしている。・我が国の安全保障と防衛について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。(c)</p>
		<p>第1編3章1 政治機構と国会</p> <p>第1編3章2 内閣と行政機能の拡大</p>		<p>○国会の地位・役割・構成・権限とはどのようなものか。国会・内閣・裁判所の関係はどのようなになっているのだろうか。</p> <p>・国会の役割や権限について理解する。</p> <p>○内閣はどのような構成で、どのような権限をもっているか。行政の民主化に必要なことは何だろうか。</p> <p>・内閣の権限と議院内閣制について理解する。</p>	<p>・国会の役割や権限、運営について理解している。・p. 41の図5の読み取りを通じて、衆議院の優越について理解することができている。・内閣の権限や議院内閣制のしくみについて理解している。・行政権の拡大と官僚政治の課題、その転換に向けたさまざまな改革について、p. 43のクローズアップなどを参考にしながら理解している。・行政改革の現状、日本各地のオンブズマンの活動状況といった諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。(a)</p> <p>・p. 40-41の本文理解を踏まえたうえで、「国会はなぜ国権の最高機関とされるのか」といった議題について考え、適切に表現している。・p. 42のCheckを通じて、議員立法に関する情報を読み取り、その課題について多面的に考察している。(b)</p> <p>・日本の政治機構について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。・行政権の拡大について関心を深めており、官僚政治と官邸主導のそれぞれの長所と短所について主体的に追求しようとしている。(c)</p>
<p>第1編3章3 公正な裁判の保障</p>		<p>○司法権の独立はなぜ重要か。違憲審査権の意義は何か。司法制度改革で司法はどうか変わったのだろうか。</p> <p>・司法制度のあり方や司法参加の意義について理解する。</p>	<p>・司法権の独立や裁判のしくみ、各裁判所の役割について理解している。・違憲審査権について理解している。・裁判員制度や検察審査会の意義と役割について理解している。・司法制度改革の現状と課題について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。(a)</p> <p>・裁判員制度の意義と課題について協働的に考察し、適切に表現している(p. 45/ Try)。・違憲審査権の行使について、2つの観点(消極的観点: 裁判所は直接国民を代表する機関ではないので、代表者からなる国会の定めた法律の違憲審査には消極的であるべきである/積極的観点: 多数決に</p>		

1 学 期		第1編3章4 地方自治と住 民福祉		<p>○地方自治の本旨とは何か。日本の地方自治はどのような財政上の課題をもち、国との関係はどうなっているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の本旨や住民の権利について理解する。 ・地方がかかえる課題について理解する。 	<p>よる政治で無視されがちな少数者の権利を救済できるのは裁判所以外にないのだから、違憲の法律による権利侵害に対しては積極的に違憲審査すべきである)を踏まえながら考え、適切に表現している。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司法制度のあり方や司法参加の意義について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。(c) <p>・地方自治の本旨である、団体自治と住民自治について理解している。・地方自治の政治・経済的な課題について理解している。・住民自治に基づく住民の権利や住民投票など、住民の意思を反映させる手段について理解している。・p.46のCheckを通じて、地方公共団体の議会と長の選出について、読み取ることができている。・p.47の時事コラムを通じて、地域社会の課題と取り組みについて、理解している。・身近な地域の人口動向や防災面での課題について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。・p.48-49のSkill UPを通じて、日本の一極集中の現状と課題を複数の資料から読み取ることができている。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p.47のCheckを通じて地方財政の課題を考察し、適切に表現している。・人口動向が地域に及ぼす影響について多面的・多角的に考察し、適切に表現している(p.47/ Try)。 ・東京圏への一極集中を解消するための取り組みについて、「東京圏」と「その他の道府県」といった観点に立ちながら多面的・多角的に考察し、適切に表現している(p.49/ Try)。(b) ・地方がかかえる課題の概要を理解したうえで、身近な地域の人口動向や防災面での課題、東京圏への一極集中といった主題に興味関心をもち、人口動向が地域に与える影響や一極集中にともなう課題の解決策などを積極的に追究しながら、「持続可能な地域社会のあり方(p.110)」や「地域における防災(p.111)」を探究するための意欲を高めている。(c)
		第1編3章 政党政治 第1編3章6 選挙制度	26	<p>○政党とは何か。戦後日本の政党政治はどう変遷してきたのか。政党政治にはどのような課題があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の政党政治の特徴と課題について理解する。 <p>○日本の選挙制度の特徴とは何か。選挙制度の課題にはどのようなものがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の選挙制度の特徴と課題について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政党政治や日本の政党政治の課題について理解している。・p.51の時事コラムを利用して、日本の政党政治の現状について理解している。・日本の選挙制度の種類とそれぞれの特徴、議員定数の不均衡などの課題について理解している。・p.52のCheckを通じて、選挙制度の特色を読み取ることができている。・選挙制度の課題、政治活動に関する規制の現状について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。(a) ・日本の政党政治の課題について、「政治資金」や「政党間の競争」といった観点に立ちながら考え、適切に表現している。 ・より公正な選挙制度のあり方について、「多様な民意の反映」や「政治の安定」と

2 学 期	7	<p>第1編3章7 世論と政治参加</p>		<p>○世論を政治に反映させるために何が必要か。メディアの責任とは何か。市民としてできることは何だろうか。 ・マス・メディアや市民運動の意義について理解する。</p>	<p>いった観点に立ちながら多面的に考察し、適切に表現している (p. 53/Try)。(b) ・政党の変遷について主体的に追究して、なぜ離合集散が繰り返されるのかといった観点から政党政治の課題を意欲的に解決しようとしている。・選挙制度について関心を深めており、デジタル時代の選挙のあり方の課題を意欲的に解決しようとしている。(c)</p> <p>・マス・メディアや市民運動が世論形成と政治にもたらす影響について理解している。・政治的無関心や無党派層の増加などの課題について理解している。・p. 54 のクローズアップを通じて、インターネットによる世論形成の課題について理解している。・民意を国政に反映させる多様な方法について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。(a)</p> <p>・SNS やインターネットの普及が世論形成に与えるメリットとデメリットについて多面的に考察し、適切に表現している。・政治への参加について、p. 55 のTry を利用して協働的に考察し、適切に表現している。(b)</p> <p>・政治と民意の関係について主体的に追究し、民意を政治に反映させるための課題を意欲的に解決しようとしている。・政治参加と公正な世論の形成について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。(c)</p>
		<p>第2編1章1 経済活動の意義</p> <p>第2編1章2 経済社会の変容</p>		<p>○経済活動とはどのように営まれているのだろうか。限りある資金や資源はどのように選択され、配分されていくのだろうか。 ・経済的な効率性と公平性の対立関係について考える。 ○資本主義と社会主義はどのように変容しているのか。市場規模の広がりを見せる市場経済の展望と課題は何か。 ・政府の規模を念頭に置いて、経済的な課題への対応を考える。</p>	<p>・生産・分配・消費、希少性、トレードオフ、機会費用など、経済の根本的な概念について理解している。・資本主義経済の成立と展開、経済における政府の役割の変化について理解している。・p. 57 のTry を活用し、効率性と公平性について理解している。(a)</p> <p>・資源の効率的な配分について、効率性と公平性の観点から多面的に考察している。・資本主義経済の成立以降、経済社会がどのように展開していったか、政府の役割の変化と関連させて考察している。・大きな政府と小さな政府の考え方について、p. 59 の Skill UP を利用しながら協働的に考察・構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b)</p> <p>・よりよい社会の実現を視野に、経済的な効率性と公平性の関係について学習したことを社会生活に生かそうとしている。・資本主義経済と社会主義経済の特徴について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。(c)</p>
		<p>第2編1章3 経済主体と市場の働き</p>		<p>○3つの経済主体間の経済循環はどのようなものか。市場の効率性と、その限界はどのような点に</p>	<p>・需要と供給により価格と生産量が変化することを理解している。・希少な資源の効率的配分をもたらす市場機構や、寡占や独占、外部不経済、情報の非対称性など市場</p>

2 学 期	8	第2編章 企業の役割	あるのだろうか。 ・経済主体を理解する。 ・需給曲線を通して市場メカニズムを考える。 ・市場の効率性と公平性はどのように調整されるべきか考える。	機能の限界について理解している。・情報の非対称性によって生じる問題の具体例について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。(a) ・市場経済における生産要素の効率的な配分や、政府の適切な施策について多面的・多角的に考察・構想したりしたことを、論拠をもって表現している。・情報の非対称性によって生じる問題とその対応策について、2つの視点（情報をもつ側ともらない側）を踏まえながら協働的に考察・構想し、適切に表現している（p.62/Try)(b) ・市場メカニズムの働きや市場の限界について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。(c)
	9	第2編章 国民所得 第2編1章6 経済成長と国民の福祉	○株式会社のしくみにはどのようなものがあるのか。企業がなすべき社会的責任とは何だろうか。 ・企業の役割と社会的責任について考える。	・有限責任と無限責任の考え方について理解している。・株式会社の仕組みについて、p.64の図2を利用して、株主と経営者との関係を理解している。・p.66のQ&Aを利用して、株式売買に関する考え方を理解している。・p.67のNAVIを踏まえながら、自身が興味関心をもっている会社情報を信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。(a) ・企業が従業員をはじめ、消費者や地域社会などに対してどのような責任を果たすべきか、協働的に考察・構想し、適切に表現している（p.65/Try）。(b) ・企業の社会的責任や法令順守の姿勢について主体的に追究して、企業の不祥事が相次いでいる現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。・社会の課題を解決する会社をどのように起業していくか、主体的に考察しようとしている。(c)
		第2編章 国民所得	○経済活動の大きさを表はかる指標には何があるのか。それぞれの指標は、どう関係しているのだろうか。 ・NIから三面等価の原則について考える。 ○経済成長や景気変動の要因とは何か。経済活動の見方であるフローとストックの違いとは何だろうか。 ・経済成長と私たちの豊かな生活について考える。	・NIの生産・分配・支出のそれぞれの内容とともに、3つが理論的に同額なることを理解している。・現在においては、GDPなどの経済指標では計りきれない福祉の側面からの指標や環境的側面からの指標、社会的側面からの指標などがあることを理解している。(a) ・景気変動による私たちの生活と企業の成長への影響や、政府による景気安定化政策について多面的・多角的に考察し・構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b) ・経済成長による経済的な豊かさと幸福について、数値化することが困難な経済活動や生活の諸行動をどのように評価すべきかという観点から、主体的に考えを導きだそうとしている。(c)
		第2編章 金融の役割	○経済活動における資金の流れとはどのようなものか。直接金融と間接金融の違いは何だろうか。 ・金融を通じた経済活動	・金融は、信用創造等により、家計や企業からの資金を様々な経済主体に投資することで資本を増加させ、生産性を高め、社会を豊かに発展させる役割を担っていることを理解している。・中央銀行の役割や金融

2 学 期		第 2 編 1 章 8 日本銀行の役割		<p>の活性化について考える。</p> <p>○日本銀行が実施する金融政策の目的は何か。どのような方法で通貨供給量を調整しているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央銀行の役割について理解する。 	<p>政策の目的と手段について理解している。</p> <p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景気のそれぞれの局面に対処するため、日本銀行がどのような政策をとっているか、企業との関係も含めて多面的・多角的に考察、構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b) ・金融技術の革新について主体的に追究して、それらをよりよい社会の実現を視野にしながら生かそうとしている。・金融商品についての関心を高めており、リスクとリターンとの関係などをよく理解したうえで、無理のない資金運用を心がけようとするなど、学習したことを社会生活に生かそうとしている。(c)
	第 2 編 1 章 9 財政の役割と租税	第 2 編 1 章 10 日本の財政の課題		<p>○経済活動における財政の役割は何か。歳入の柱である租税は、どのようなしくみになっているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政の持つ様々な役割について考える。 ・納税者としての立場から租税のあり方について考える。 <p>○税制改革とは何か。財政の硬直化が生じる原因とは何か。財政構造改革とはどのような改革なのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の財政の現状を理解し、これからの財政のあり方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政に求められる機能について理解している。・p. 78 の図 2 を利用して、一般会計の歳入・歳出がどのように推移してきたかを適切に読み取ることができている。 ・累進課税制度について、計算方法も踏まえながら理解している (p. 78/xercise)。 ・日本の財政の現状と課題について、p. 80 の本文や p. 81 の時事コラム、p. 82-83 の Skill UP の内容理解や複数資料の読み取りを通じて理解している。・主要な直接税と間接税について、各税を増税した場合のメリットとデメリットを信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている (p. 79/Try)。(a) ・一般会計の歳入・歳出について、一部項目が大きく増加した背景を考察し、適切に表現している。・プライマリーバランスの改善や債務残高の減少に資する方策について、多面的・多角的に考察し、論拠をもって表現している (p. 81, 83/Try)。(b) ・公平な税負担について、主体的に考えを導きだそうとしている。・日本の財政の現状と課題を理解したうえで、財政再建について興味関心をもち、歳出減と歳入増の両面から再建のための方策を積極的に追究しながら、「財政健全化のあり方 (p. 112)」を探究するための意欲を高めている。(c)
	第 2 編 2 章 1 日本経済の成長と課題			<p>○日本経済は戦後復興をどのようにはたしたのか。1990 年代以降の長期不況に対し、どのような対策がとられたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な事象が日本経済に与えた影響を、統計資料を基に考える。 ・人口減少社会と格差・貧困が経済に与える影響を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後復興、高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊などの背景や要因について理解している。・高度経済成長期、安定成長期、現在の成長率について、p. 84 の図 1 から傾向を適切に読み取り、把握している。 ・p. 85 の図から「失われた 10 年」の実態を適切に読み取り、理解している。・現在の日本の産業構造や GDP に占める各産業の割合、産業別の労働生産性などを信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。(a) ・2000 年代以降、景気が拡大しても経済成長率が伸び悩んでいる理由について、多面的・多角的に考察している。・人口減少社会が直面する経済的課題について協働的に考察したうえで、そのための経済政策を選

2 学 期		第 2 編 2 章 2 中小企業と農 業		<p>○日本の中小企業の現状と課題は何か。国際化の影響を受ける農業には、どのような農政が必要なのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済の二重構造に注目して日本経済のあり方を考える。 ・社会とのかかわりに着目して、これからの中小企業の姿を考える。 ・農業の自由化を背景として改革が進められている農政について考える。 	<p>択・判断し、表現している。・今後の日本経済のあり方について、収集した諸情報にもとづいたうえで、「効率性」と「公平性」といった観点も踏まえながら多面的・多角的に考察し、表現している。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p. 87 の時事コラムを踏まえつつ、今後の日本経済がどのような豊かさを目指していくべきかについて主体的に追究して、よりよい社会の実現を視野に学習したことを社会生活に生かそうとしている。(c) ・p. 88 の図1～3 から情報を適切に読み取り、中小企業と大企業の違いを理解している。・中小企業が日本経済の発展に寄与してきた役割について理解している。・後継者不足のために黒字経営であっても廃業を選ぶ中小企業がある状況を知り、事業承継が課題となっていることを理解している。 ・ベンチャー企業や社会的企業のように、大企業では事業を進められなかった分野で活躍する中小企業のあり方について理解している。・中小企業を支援すべき理由について、教科書の内容や信頼性の高い情報源から収集した内容などを手掛かりとしながら、適切に整理することができている (p. 88/Try)。 ・教科書本文と p. 89 の図1から、農家数の推移や農家の構成などを適切に読み取り、日本の農業における担い手の問題を理解している。・農業基本法や食料・農業・農村基本法、食糧管理制度や新食糧法などの農業政策の流れについて理解している。・食料安全保障の観点から、日本の食料自給率と貿易の関係について理解している。・農業法人による大規模化や6次産業の進展、スマート農業の振興など、日本の農業の新しい流れについて理解している。(a) ・日本経済における中小企業の構造的な課題について、大企業との関係や国際化の観点から多面的・多角的に考察している。・日本経済の基盤ともいえる中小企業が、自立的に成長していける環境を作り出すためにどのような政策が必要か、協働的に考察し、その結果を適切に表現している。・所得補償金などによって小規模農家を保護すべきか、規制緩和で大規模経営を振興すべきか、といった観点で日本の農業について協働的に考察・構想や政策判断をし、それらを適切に表現している。・持続可能な農業への取り組みと消費者とのかかわりについて多面的・多角的に考察し、表現している (p. 89/Try)。(b) ・食料安全保障について主体的に追究し、自給率向上などの日本農政の課題を意欲的に解決しようとしている。・6次産業化や高付加価値農産品、スマート農業の進展など農政の新しい動きに注目し、これらの学習の成果を将来の職業選択などにおいて生かそうとしている。・中小企業をめぐる現状を理解したうえで、ベンチャー企業のあり
-------------	--	----------------------------	--	--	---

2 学 期	10	第2編2章3 消費者問題		<p>○さまざまな消費者問題に、行政や消費者自身はどう対応しているのか。消費者の権利と義務とは何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者行政の内容を知り、契約の権利と責任の関係を考える。 	<p>方について興味関心を持ち、「起業 (p. 113)」について探究するための意欲を高めている。・農業をめぐる現状と課題を理解したうえで、これからの日本の農業について興味関心を持ち、「持続可能な農業のあり方 (p. 114-115)」を探究するための意欲を高めている。(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・典型的な消費者問題や悪質商法にはどのようなものがあるか理解している。・消費者保護基本法から消費者基本法にいたる消費者行政の内容を知り、求められる消費者像の変遷について理解している。・消費者相談の実態について、国民生活センターのウェブサイトから情報を適切に取り取り、それらをまとめることができている。 ・契約の効力が発生する要件や、消費者契約法に定められている契約取り消しの意義などについて理解している。(a) ・消費社会の拡大や過度な宣伝等について問いを見出し、消費者主権や消費者の権利の観点などから協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。・消費者の権利と責任について、自由と義務の観点から整理し、レポートにまとめるなど適切に表現している。(b) ・消費者の自立と自己責任について関心を深め、消費者の権利と責任に関する課題を意欲的に解決しようとしている。・よりよい社会の実現を視野に、消費者問題について学習したことを社会生活に生かそうとしている。(c)
	第2編2章4 公害防止と環境保全		<p>○公害はなぜ発生するのか。公害防止や環境保全のためには、どのような対策が必要なのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済成長と公害問題との関係を考える。 ・法制度の整備のほか、私たち消費者の行動について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における公害の発生と原因を理解している。また、p. 92の表2から必要な情報を適切に取り取り取っている。・政府による公害対策や環境保全のための法整備について理解している。・循環型社会の理念を理解している。また、3Rの原則について理解し、その実態を信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。(a) ・環境保全と経済活動の両立について協働的に考察したうえで選択・判断し、それらを適切に表現している。・循環型社会の実現における課題を見出し、法制度と消費者の観点から協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。・環境保護に向けた取り組みのあり方について、多面的・多角的に考察している (p. 93/Try)。(b) ・日本の公害問題と環境政策に関する理解のもとで、今後の環境問題の解決方法について主体的に追究して、課題を意欲的に解決しようとしている。・よりよい社会の実現を視野に、循環型社会の実現に向けた諸施策など学習したことを、社会生活に生かそうとしている。(c) 	

2 学 期	<p>第2編2章5 労働問題と労働者の権利</p> <p>第2編2章6 こんにちの労働問題</p>		<p>○労働者の権利は、どのようにして確立してきたのか。労働基本権を具体化する労働三法とはどのような法律だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働法の整備状況や、職場の人権保障について考える。 <p>○日本の伝統的な雇用形態は、どう変化してきたか。職場における人権の課題にはどのようなものがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本的雇用形態の変化や、ワーク・ライフ・バランスについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働基本権と労働三法の内容について理解している。 ・職場における不当な差別的扱いがあつてはならず、そのための法整備と対策が急がれることを理解している。 ・「女性と労働」といった主題について、p. 95のCheckを活用しながら日本でみられる傾向やその背景を適切に読み取り、まとめることができている。 ・具体的な労働問題について、p. 100のNAVIを活用し、理解している。 ・日本的雇用形態の特徴を理解しており、また、それらのあり方が崩れてきていることを理解している。 ・日本の労働環境について、教科書本文の内容や信頼性の高い情報源から収集した内容、労働環境に関する各国資料(p. 101/Skill UP)を足掛かりとしながら日本の特徴を適切に読み取り、まとめることができている(p. 99, 101/Try)。(a) ・なぜ労働法規によって労働者の権利保護が図られているのか協働的に考察し、それらを適切に表現している。 ・どうすれば職場における不当な差別的取り扱いが解消できるのか、多面的に考察している。 ・非正規雇用の労働者が置かれている厳しい状況について、権利の保障や保護の観点から課題と解消のための政策を協働的に考察・構想し、それを適切に表現している。(b) ・p. 67やp. 96-97のNAVIを活用して会社情報や労働条件に対する興味関心を高め、就業に際して自身が重視する観点を主体的に追究しようとしている。 ・日本の労働をめぐる現状と課題を理解したうえで、諸外国の労働環境やこれからの日本の労働環境について興味関心をもち、「日本におけるワーク・ライフ・バランスの実現(p. 116-117)」を探究するための意欲を高めている。 ・よりよい社会の実現を視野に、ワーキングプアの解消やワーク・ライフ・バランスの実現を目指して、学習した内容を社会生活に生かそうとしている。(c)
	<p>第2編2章7 社会保障の役割と課題</p>		<p>○社会保障制度は、どのように発展してきたのか。日本の社会保障制度のしくみと課題は何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国の制度との比較も含めて考える。 ・少子高齢化や日本の財政の現状も踏まえながら、今後の課題を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の考え方を知り、それらが歴史的にどのように制度化されてきたかについて理解している。 ・日本の社会保障制度が諸外国との比較でどのようなものであるかを読み取り、また、その概要を理解している(p. 102のCheck/p. 105のSkill UP)。 ・少子高齢化が進行する中で、社会保障が直面している問題について、とくに財政的な課題をp. 104の図1と2から適切に読み取り、理解している。 ・社会保障は高齢者だけのものではなく、社会に参加するすべての世代について検討されるべきものであることを理解している。 ・各国の社会保障のしくみを信頼性の高い情報源から収集し、長所と短所を比較する形で適切に整理することができている(p. 104/Try)。(a) ・社会保障のあり方について、税金中心のしくみと社会保険中心のしくみでどのような

2 学 期	11	<p>第 3 編 現代日本における諸課題の探究</p> <p>第 1 編 1 章 1 国際社会と国際法</p> <p>第 1 編 1 章 2 国際社会の変化</p>		<p>・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化と起業、歳入・歳出両面での財政健全化、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。</p> <p>○国際社会を構成する要素は何か。国際法とは何か。領土問題の発生にはどのような原因があるのだろうか。</p> <p>・国内政治や国内法との比較で考える。</p> <p>○国際社会における戦争観や人権の考え方はどう変化したか。国際社会におけるNGOの役割とは何だろうか。</p> <p>・二度の世界大戦が国際法と国際政治に与えた影響について考える。</p>	<p>な違いがあるか協働的に考察し、それらを適切に表現している。・日本の社会保障制度の現状と課題について、多面的・多角的な観点（少子高齢化、年金制度、負担と給付のバランス）に立ちながら考察し、適切に表現している（p.105/Try）。（b）</p> <p>・安心して暮らせる豊かな社会について主体的に追究して、社会保障を社会の中で有効に働かせるための課題を意欲的に解決しようとしている。・よりよい社会の実現を視野に、ノーマライゼーションの進展について学習したことを社会生活に生かそうとしている。・日本の社会保障をめぐる現状と課題を理解したうえで、諸外国の社会保障制度やこれからの日本の社会保障制度について興味関心をもち、「日本における持続可能な福祉社会の実現（p.118-119）」を探究するための意欲を高めている。（c）</p> <p>・各課題に関連する知識（小学校および中学校で習得した概念などに関する知識や『公共』で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方、政治および経済の基本的な概念や理論など）を整理し、理解している。・各課題の解決に向けた考察・構想に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。（a）</p> <p>・社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。（b）</p> <p>・よりよい社会の実現のために、現代日本の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。（c）</p> <p>・主権国家と国際社会の成り立ちについて理解している。・国際社会には中央政府のようなものが存在しておらず、そのなかで各国が国家利益を調整する国際政治が行われていることを理解している。・主権の及ぶ領域について、p.120の図1から必要な情報を適切に読み取り、主権国家の理解を深めている。・p.121のQ&Aを利用して、条約の効力について理解している。・領土問題がなぜ生じるのか、また、どのように解決することが望まれているのかを理解している。・二度の世界大戦を契機として、国際法に大きな変化が生じたことを理解している。・国際司法裁判所や国際刑事裁判所が設立され、NGOをはじめ多様な主体が活動するなど、国際政治に変化が生じていることを理解している。（a）</p> <p>・国際政治や国際法はどのようなものなのか、国内政治や国内法との違いに着目してまとめるなど、適切に表現している。・領土問題について問いを見出し、平和的に解決する観点から協働的に考察・構想し、そ</p>
-------------	----	--	--	---	---

2 学 期		第 1 編 1 章 3 国際連合と国 際協力			<p>○集団安全保障とは何か。国際連合は、国際連盟と比べてどのような点が異なっているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要機関や専門機関の働きから考える。 ・安保理改革などを材料に国際連合の課題を考える。 	<p>れらを適切に表現している。・世界政府のような超国家的存在を設けた場合の問題点について、主権国家の権利の観点などから協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NGO の取り組みについて主体的に追究し、環境保護や人権擁護に関する課題の解決を意欲的に検討している。・よりよい社会の実現を視野に、主権国家間の国家利益を調整することについて学習したことを、他者との利害調整といった社会生活に生かそうとしている。(c) <p>・国際連盟の成立と崩壊の歴史的経緯について理解している。・勢力均衡と集団安全保障の違いについて理解している。・国際連盟と国際連合の違いについて、p. 124 の図1 から必要な情報を適切に読み取ることができている。・安全保障理事会の機能について理解している。また、安保理改革として求められている内容を理解している。・国連が取り組む課題について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際連合が抱えている課題について、採決や財政の観点などから協働的に考察し、それらを適切に表現している。・安保理改革の必要性について、大国一致の原則や拒否権の行使の観点から協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。・紛争をなくしていくためのルールや制度について協働的に考察し、それらを適切に表現している (p. 125/Try)。(b) ・国際連合の専門機関が取り扱っている人権や社会、経済や環境問題に関する行動について主体的に追究し、国際的な課題を意欲的に解決しようとしている。・国際連合のしくみや取り組みを理解したうえで、国際社会における平和の実現について興味関心をもち、「持続可能な平和のあり方 (p. 161)」を探究するための意欲を高めている。(c)
		第 1 編 1 章 4 こんにちの国 際政治			<p>○冷戦の終結によって、国際社会はどうか変わったのか。紛争やテロの背景にはどのようなものがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対立構造の変容から、国際社会の力学の変化を考える。 ・大国の動向や、国家対国家の枠組みに収まらない対立構造について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦構造の概要について理解している。・p. 126 の図1 から、冷戦終結後に民族紛争が多発したことを適切に読み取っている。・国家間の戦争が対テロ戦争の様相を示した経過を理解している。・中国やロシアなどの大国が領有権紛争を起していることや、中東の民主化運動により地域全体が不安定化していること、米中対立の深化など、今日的な国際政治の課題を理解している。・冷戦終結後の「平和に対する脅威」の具体例について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。(a) ・冷戦終結後に地域・民族紛争が多発したことについて、その要因を多面的・多角的に考察している。・冷戦後の「平和に対する脅威」をとりのぞくために何が必要か、

2 学 期		第1編1章5 人種・民族問題			<p>○人種・民族問題はなぜ生じるのだろうか。問題解決のためには、国際社会でどのような取り組みが必要なのだろうか。</p> <p>・ナショナリズムや自民族中心主義との関係から考える。</p>	<p>といった観点で協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している (p. 127/ Try)。(b)</p> <p>・国際社会における法の支配について主体的に追究し、各国の国益を超えた問題解決に向けて意欲的に考察している。(c)</p> <p>・人種問題について、具体例（公民権運動、アパルトヘイト）を踏まえながら理解している。・民族問題について、p. 130 の時事コラムを利用して、問題の所在や解決に向けた働きかけの推移について理解している。・p. 128 のクローズアップを利用して、アフリカの政治的な課題について理解している。・p. 129 の時事コラムから情報を適切に読み取り、難民をめぐる動向や基礎的な統計情報を理解している。・多民族国家としてマイノリティを抑圧しないために、多文化主義に立つことが重要であることを理解している。(a)</p> <p>・紛争の背景を踏まえながら、その防止策や解決に向けた国際社会の取り組みについて協働的に考察・構想し、適切に表現している (p. 129, p. 131/ Try)。</p> <p>・難民や国内避難民について、どのような援助が必要とされているのかを協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。・多文化主義を取り入れていくことに関する課題を見出し、その解消に向けて協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。</p> <p>・異なる民族の共存やそれを実現するための政策について考察し、適切に表現している (p. 130/ Try)。(b)</p> <p>・難民や国内避難民について主体的に追究し、いかにしてその支援等に寄与することができるかなど、意欲的に解決しようとしている。・よりよい社会の実現を視野に、多文化主義について学習したことを、日常生活における他者との関係において生かそうとしている。・人種・民族問題や紛争の背景や影響を理解したうえで、国際社会における難民の現状や平和の実現について興味関心を持ち、「日本における難民問題 (p. 155)」や「持続可能な平和のあり方 (p. 161)」を探究するための意欲を高めている。(c)</p>
	第1編1章6 軍拡競争から軍縮へ		28	<p>○核抑止論とは何か。軍縮はどのように進んできたのか。核廃絶の動きにはどのようなものがあるのだろうか。</p> <p>・冷戦による対立構造と安全保障のジレンマを確認する。</p> <p>・核兵器禁止条約の採択に向けた動きを参考にして考える。</p>	<p>・核抑止論の考え方について理解している。また、安全保障のジレンマのために軍縮が進めにくくなっている構造について理解している。・核廃絶に向けた運動が盛り上がるなか、数々の軍縮条約が締結されていった経過について理解している。・NPTに参加しない国があることや、CTBTの発効の見通しが立たない状況など、核廃絶に向けて課題が残されていることを理解している。・核兵器禁止条約の歴史的意義について理解するとともに、核保有国や日本が参加していない理由や課題についても理解している。(a)</p>	

3 学 期	12	<p>第 1 編 1 章 7 日本の外交と 国際社会での 役割</p>		<p>○戦後日本の外交はどう 展開されてきたか。日本 は国際社会でどのような 役割を求められているの だろうか。 ・とくにアジア諸地域の 信頼回復の経緯を確認す る。 ・人間の安全保障の観点 から考える。</p>	<p>・安全保障のジレンマを乗り越えて軍縮を 進めていくためには何が必要となされる か、協働的に考察・構想し、それらを適切 に表現している。・核保有国を増やさないた めにはどのようなことが必要か、多面的・多 角的に考察している。(b) ・核兵器禁止条約について主体的に追究 し、賛成を表明した国と反対した国の主張 を比較して、さらに多くの国が参加するた めには何が必要なのか、意欲的に検討し解 決しようとしている。・よりよい社会の実現を 視野に、軍縮における合意形成の過程を参 考にして、他者との意見調整などに生かそ うとしている。(c)</p> <p>・戦後の主権回復と国際社会への復帰につ いて、その経過を理解している。・アジア諸国 との国交正常化が進められる一方、賠償の あり方をめぐって裁判が繰り返されるな ど、根本的な解決には至っていない現状を 理解している。・北朝鮮による拉致被害と人権 侵害について、国際連合も日本を支持する 決議を出しているなど、解決が望まれている ことを理解している。・p. 134 の図 1 から情 報を読み取り、日本が北方領土と竹島にお いて領土問題を抱えていることを理解してい る。・ODA や PKO などの国際貢献活動につ いて、広く理解している。(a) ・日本の領土問題について、平和的な解決 のために必要なことを多面的に考察してい る。・国際の平和と安全のために、国連機構や 加盟国が果たすべき役割（とくに日本が今 後の国際社会で果たすべき役割）について 協働的に考察・構想し、それらを適切に表 現している。(b) ・国際貢献について主体的に追究し、政府 レベルや企業レベル、市民レベルの観点か ら、課題を意欲的に解決しようとしてい る。・国際社会で日本が果たすべき役割につ いて考察を深めるなかで、国際社会における 平和の実現について興味関心をもち、 「持続可能な平和のあり方 (p. 161) 」を探 究するための意欲を高めている。(c)</p>
		<p>第 2 編 1 章 1 貿易と国際収 支</p> <p>第 2 編 1 章 2 外国為替市場 のしくみ</p>		<p>○自由貿易や保護貿易の 考え方が主張された背景 は何か。国際収支は、ど のように分類できるのだ ろうか。 ・比較生産費説を検討し て考える。 ・貿易収支の数値から一 国の貿易の動向を確認す る。 ○外国為替とはどのよう なしくみか。為替レート の変動が経済にもたらす 影響にはどのようなもの があるだろうか。 ・外国為替市場における</p>	<p>・自由貿易のメリットを、比較生産費説を もとに理解している。・国際分業の利益につ いて、多国籍企業の展開と合わせて理解してい る。・保護貿易が提唱される理由を理解してい る。また、近年では先進国においても保護 貿易的な動きがみられることを理解してい る。・国際収支の考え方を理解している。ま た、p. 137 の Skill UP を踏まえて、各時代 における貿易のあり方にどのような特徴があ ったかを読み取ることができている。・p. 138 の図 1 から必要な情報を読み取り、外国為 替のしくみについて理解を深めている。・円高 や円安が日本経済に与える影響について、輸 入業者や輸出業者の具体的な取引をもとに 理解している。 (a)</p>

3 学 期		<p>第2編2章1 第二次世界大戦後の国際経済</p>		<p>需要と供給の関係を確認する。 ・具体的な事例を基にして為替相場の動向が経済に与える影響を考える。</p> <p>○戦後のIMF体制は、どのように変遷したか。貿易自由化をめざすWTOがかかえる課題は何だろうか。 ・本文や図版資料を基に、歴史的な経過を確認する。 ・ドーハラウンドにおける先進国と途上国の対立や、二国間交渉への傾倒などから課題を考える。</p>	<p>・自由貿易が世界全体の発展に寄与するという仮説が適切かどうか、協働的に考察し、それを表現している。 ・日本経済にとって、円高傾向がよいのか円安傾向がよいのかについて、協働的に考察し、それらを適切に表現している。(b) ・自由貿易を推進するメリットと、近年先進国が保護貿易的な動きを見せていることについて主体的に追究し、望ましい貿易のあり方を意欲的に探究しようとしている。 ・円高や円安が輸出・輸入価格に影響することを踏まえて、円相場の変動にあわせて輸入品や外国株式の購入時期を検討しようとするなど、社会生活に生かそうとしている。(c)</p> <p>・IMFとGATTに代表される国際経済体制について、その概要を理解している。 ・固定為替相場制から変動為替相場制へと移行した歴史的な経過について理解している。 ・GATT、WTOにおける多角的交渉が目指したものについて理解している。(a) ・ドーハラウンドにおける協議がなぜ停滞しているのか、多面的に考察している。 ・公正な国際貿易体制とはどのようなものか、協働的に考察し、それらを適切に表現している(p.141/Try)。(b) ・WTOが国際経済体制に果たす役割について主体的に追究し、ドーハラウンドが抱えている課題を意欲的に解決しようとしている。 ・公正な国際貿易体制のあり方について主体的に追究し、各国が従うべき貿易のルール作りに関する課題を意欲的に解決しようとしている。(c)</p>
		<p>第2編2章2 国際経済の動向</p> <p>第2編2章3 新興国の台頭</p>		<p>○経済統合はどのように進展していくのだろうか。各地域で進んでいる貿易協定にはどのようなものがあるのだろうか。 ・各地域の状況を確認する。 ・多角主義の原則から二国間協定への流れ、さらにメガFTAの挑戦といった過程を確認する。 ○急成長をとげる新興国の現状と課題は何か。こうした新興国の動向は、国際経済にどのような影響を及ぼしているのだろうか。 ・中国とインドについて、その現状と課題を理解する。</p>	<p>・FTAやEPAがどのようなものであるのか理解している。 ・EUを例として、どのように統合が深化していったかを理解している。 ・各地域でどのような経済統合が形成されていったかについて理解している。また、p.143の図4から情報を読み取り、各地域的経済統合についての理解を深めている。 ・世界経済が密接に関連しあい、グローバル・バリューチェーンを形成していることを理解している。 ・新興国の中でも、とくに中国とインドが世界的な影響力を強めていることを理解している。 ・急速な経済成長を進める中国とインドが、国内において多様な課題をかかえていることを理解している。 ・p.145のCheckを通じて、アメリカと中国の経済状況の違いを適切に読み取っている。 ・中国やインドが国際経済のなかで直面している課題について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている(p.145/Try)。(a) ・EUの統合について課題を見出し、各国の経済的格差の課題などについて協働的に考察し、適切に表現している。 ・TPP11が日本経済にもたらす影について、多面的に考察している。 ・地域的経済統合がもつメリッ</p>

3 学 期	1	<p>第 2 編 2 章 4 経済のグロー バル化と ICT でかわる世界 経済</p>	<p>○グローバル化の進展 は、経済や社会にどのよ うな影響を及ぼしたのだ ろうか。どのような課題 が生じているのだろうか。 ・ヒト・モノ・カネが自由 に移動した結果、世界は これまで以上に緊密化し たことを確認する。 ・金融危機などの影響も グローバル化し、富の偏 在も世界規模に拡大した ことを確認する。</p>	<p>トとデメリットについて、自由と公正の観 点から協働的に考察し、適切に表現してい る。(b) ・EU の統合について主体的に追究し、そのな かで生じたイギリスの離脱に見られるよう に経済統合のひずみをどのように解消する かを意欲的に検討している。・TPP11 や RCEP について主体的に追究し、今後の日本が各国と の貿易においてどのように主導的な役割を 果たしていくべきか、意欲的に検討しよう としている。(c)</p> <p>・グローバル化した世界において、多国籍 企業の存在が大きくなっていることを理解 している。・グローバル化によって人の往来が 活発になり、そのなかで共生が課題となっ ていることを理解している。・金融のグロー バル化の結果、資本の国際取引が活発にな ったが、その一方で投機的資金の移動が実 体経済を脅かすこともあることを理解してい る。・グローバルな労働者移動の現状と課題、 ICT や AI 技術が国際社会に影響を及ぼしてい る事例について、信頼性の高い情報源から 収集し、適切に整理することができてい る。(a) ・共生の課題について、経済移民を労働力 ではなく「生活人」として擁護するため にはどうすればよいか、協働的に考察・構 想し、それらを適切に表現している。・国際 的な資本取引に対する金融規制をどう考 えるかについて協働的に考察し、適切に表 現している。・グローバル化がもたらすメ リットとデメリットにはどのようなもの があるか、多面的に考察している。 ・ICT や AI 技術の普及にともなうメリ ットとデメリットについて協働的に考察し、 適切に表現している (p.147/Try)。(b) ・国際的な資本取引に対する金融規制につ いて主体的に追究し、OECD における議論 などを参考にしながら意欲的に解決しよう としている。・よりよい社会の実現を視野 に、グローバル化と共生の課題につ いて学習したことを、自らの生活圏内に生 きる外国人労働者に対するまなざしの中 で生かそうとしている。・「グローバル 化の進展と労働力移動」や「ICT や AI 技術」に関する理解を深めるなかで、そ れぞれの進展によって生じる課題につ いて興味関心をもち、「外国人労働者 との共生のあり方 (p.156)」や「自動運 転技術のあり方 (p.157)」を探究する ための意欲を高めている。(c)</p>
		<p>第 2 編 2 章 5 発展途上国の 課題と展望</p>	<p>○南北問題の解決に向 け、発展途上国はどのよ うに対応してきたのか。 南南問題とはどのような ものだろうか。 ・資源ナショナリズムや 新国際経済秩序樹立に関</p>	<p>・南北問題について、その背景と現状につ いて理解している。・資源産出国が自 国の権益を保護しようとした歴史的な 経過について理解している。・発展途 上国の中でも、高い成長を記録した 国がある一方、絶対的な貧困に悩む 国がある現状を理解している。(a)</p>

3 学 期		<p>第2編 章6地 球環境問 題，資源エネ ルギー問題</p> <p>第2編 2章7 経済協力と日 本の役割</p>		<p>する宣言などを通して考 える。 ・途上国間の経済格差に ついて理解する。</p> <p>○化石燃料はなぜ大量消 費されるのか。大量消費 にともなう課題の解決に 向け、どのような取り組 みが進んでいるのだろう か。 ・エネルギー資源の歴史 と化石燃料が大量消費さ れる背景を理解する。 ・地球温暖化問題をめぐ る現状と課題について理 解する。</p> <p>○貧困や飢餓の問題に対 して、先進国や国連はど う対応しているか。日本 のODAの現状と課題は 何だろうか。 ・援助と開発の過程につ いて確認する。</p>	<p>・モノカルチャー経済に依存する経済上の 問題について多面的・多角的に考察し、表 現している。・途上国の貧困削減の取り組みの 進め方について多面的に考察し、適切に表 現している。(b) ・よりよい社会の実現を視野に貧困を解消 するための具体的な行動について積極的に 考察し、社会生活に生かそうとしている。 ・世界の貧困状況やそれを解消するための 取り組みについて興味関心をもち、「国際経 済格差の是正 (p.160)」を探究するための 意欲を高めている。(c)</p> <p>・化石燃料と再生可能エネルギーの特徴につ いて、それぞれ理解している。・p.150の図1 から、世界の一次エネルギー消費量について、 その推移と現状を読み取ることができてい る。・パリ協定やSDGsの目標をめぐる現状と 課題について理解している。 ・パリ協定にもとづく各国の二酸化炭素削 減目標について、信頼性の高い情報源から 収集し、適切に整理することができてい る。(a) ・調べて整理したパリ協定にもとづく各国 の二酸化炭素削減目標を踏まえながら、日 本がその目標を達成・実現するための手段 について協働的に考察し、適切に表現して いる (p.151/Try)。(b) ・地球温暖化や資源エネルギーをめぐる現 状を理解したうえで、脱炭素社会の形成に ついて興味関心をもち、「地球環境問題，資源 エネルギー問題 (p.158-159)」を探究する ための意欲を高めている。(c)</p> <p>・先進国による援助の中心として ODA がおこ なわれてきたことを理解している。・ p.152の図1から情報を読み取り、先進国の ODA 実績の動向について理解を深めてい る。・アフリカ経済の現状や日本のアフリカに 対する経済協力のあり方、JICAによる具体 的な活動事例などについて、信頼性の高い 情報源から収集し、適切に整理することが できている。(a) ・日本の ODA の特徴と課題はどのようなもの か、資金の用途や貸与方式などの観点から 協働的に考察し、適切に表現している。 ・これからの日本の ODA のあり方につい て、p.152のCheckを利用して多面的・多角 的に考察し、適切に表現している。・アフリ カをめぐる動向について調べたうえで、望 ましい国際協力のあり方について協働的に 考察・構想し、それらを適切に表現してい る (p.153/Try)。(b) ・国際社会における貧困と格差の解消につ いて主体的に追究し、JICAによる支援活動 などについても興味を持ち、それらの課題 を意欲的に解決しようとしている。・途上国を めぐる国際協力の現状について理解したう えで、国際社会における開発と援助の 現状や平和の実現について興味関心をもち</p>
-------------	--	---	--	---	---

3 学 期		<p>第3編 国際社会における諸課題の探究</p>		<p>16</p> <p>・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容，地球環境と資源・エネルギー問題，国際経済格差の是正と国際協力，イノベーションと成長市場，人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組，持続可能な国際社会づくりなどについて，取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察，構想し，よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明，論述させる。</p>	<p>ち，『国際経済格差の是正 (p. 160)』や「持続可能な平和のあり方 (p. 161)」を探究するための意欲を高めている。(c)</p> <p>・各課題に関連する知識（小学校および中学校で習得した概念などに関する知識や『公共』で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方，国際政治および国際経済の基本的な概念や理論など）を整理し，理解している。・各課題の解決に向けた考察・構想に必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取る技能を身に付けている。(a)</p> <p>・社会的な見方・考え方を総合的に働かせ，各課題の解決策を多面的・多角的に考察，構想し，持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明，論述している。(b)</p> <p>・よりよい社会の実現のために，国際社会の諸課題を主体的に追究し，他者との協働もはかりながら，多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。(c)</p>
-------------	--	-------------------------------	--	--	---

合計 70 時間

課程 全日制

教科	公民科	科目	倫理	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書		新倫理（清水書院）							
補助教材等		使用しない							

1 学習の到達目標

科目の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせる。 ・現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。 ・広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
---------	---

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○時代を超えて今に生きる思想や宗教についての理解を深め、自分の生き方を見つめてみよう。</p> <p>○世界の中で生じている対立の原因を人間の倫理面から考えてみよう。</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 ・諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。 ・現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究し、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。 ・多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果 ・振り返りシートの内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発問とそれに対する返答の内容 ・振り返りシート

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
1学期	4月	第1編 序章 人間とは何か	教科書	2	さまざまな人間観の理解を通して人間の多様な在り方に思索を向けさせるとともに、人間存在への問いから現代の諸課題を探究することを理解させる。	(a) (b)原典資料や芸術作品などからの読み取り、小テスト (c)ディスカッション、レポート

1 学 期	4 月	第1編 第1章 1 心の機能と個性 2 パーソナリティの形成と「私」	教 科 書	2	心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、個性やパーソナリティに着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。	(a) (b) 原典資料や実験や観察、統計的なデータなどからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
	4 月	第1編 第2章 1 人間の活動を支える心 2 認知のしくみ 3 生涯にわたる発達	教 科 書	2	心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、個性やパーソナリティに着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。	(a) (b) 原典資料や実験や観察、統計的なデータなどからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
1 学 期	5 月	第2編 第1章 1 神話から哲学へ—自然哲学者たち 2 知と徳をめぐる問い—ソクラテス 3 理想主義的なあり方—プラトン 4 現実主義的なあり方—アリストテレス 5 幸福をめぐる問い—ヘレニズムの思想	教 科 書	4	・西洋社会の根幹にあり、現代の合理主義の由来となる古代ギリシアの思想の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。・古代ギリシアの理性をもつ人間という人間観の理解を通して、自分の考えを論理的、批判的に吟味する力や対話する力などを身につけることが大切であることを自覚させる。・ソクラテスの思索が人間としての自覚の第一歩であることを自覚させ、各自の人生への問いと結び付けて考察させる。・プラトン、アリストテレス、ヘレニズムの思想が人間の存在や価値をいかに論じたかを理解させ、良識ある公民とはいかに在るべきか、いかに生きるべきかという自己の課題について、多面的・多角的に考察させる。	(a) (b) 原典資料や実験や観察、統計的なデータなどからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
1 学 期	5 月	第2編 第2章 第1節 1 ユダヤ教 2 イエスの思想 3 世界宗教への展開	教 科 書	4	・世界宗教としてのキリスト教とイスラーム教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。・ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の一神教が神と人間の間をどのように捉えたか、相互の比較を通して理解を深める。・キリスト教の原罪や恩寵を特徴とする	(a) (b) 原典資料や実験や観察、統計的なデータなどからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート

		第2節 戒律と平等の教えーイスラーム教			人間観や神の愛や隣人愛の理解を通して、自己の課題と結び付けて考察させる。・イスラーム教の宗教的な義務や戒律などの倫理に関する諸概念の理解を通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察させる。	
1 学 期	5 月	第2編 第3章 第1節 1 バラモン教 2 仏陀の思想 3 仏教とその後の展開 第2節 仁と礼の教えー儒教 1 儒家の教え 2 儒教の展開 3 道家の思想	教 科 書	5	<ul style="list-style-type: none"> ・世界宗教としての仏教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・仏教の人間観や人生観を理解し、生の苦悩とその克服といった課題を、自己の課題と重ね合わせて考察させる。 ・仏教の生命あるもの全てに対する慈悲の教えを通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察させる。 ・孔子や孟子の言行や宋学の思想の理解を通して、人間についての見方や、望ましい人間関係の在り方について自己の課題と結び付けて思索を深める。 ・老子や荘子の思想における人間観を理解し、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 	(a) (b) 原典資料や実験や観察、統計的なデータなどからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
1 学 期	6 月	第2編 第4章 芸術と倫理	教 科 書	1	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の内面に美を求める心があること、それが人生を豊かにするものであることを理解させる。・絵画や造形芸術、伝統文化などの作品や原典資料を手掛かりに、美の概念を自らの生き方と関わらせ、芸術とは何か、芸術が人生や社会に与える影響がどのようなものか、などについて思索を深める。 	(a) (b) 芸術作品の読み取り、意見発表 (c) ディスカッション、レポート
1 学 期	7 月	第3編 第1章 近代の成立	教 科 書	1	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を根本から考えなおすための手掛かりとして、西洋の近代の特徴を理解させる。 ・合理化や進歩、進化という概念から現代の諸課題を考察させる。 	(a) (b) 原典資料や実験や観察、統計的なデータなどからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
1 学 期	7 月 8	第3編 第2章 第1節	教 科 書	3	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳を論じたルネサンス、宗教改革、モラリストの思想を通して、幸福、愛、徳に着 	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート

	月	1 ルネサンスとヒューマニズム 2 宗教改革と人間の内面 3 人間の偉大と限界			目して、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて考察させる。	
2 学 期	9 月	第3編 第2章 第2節 1 近代科学の思考法 2 事実と経験の尊重—ベーコン 3 理性の光—デカルト	教 科 書	3	自然と人間との関わりや世界を捉える知の在り方を論じた近代科学の思考法、経験論と合理論を通して、真理や存在に着目して、人間の認識と経験を考察させる。	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
2 学 期	9 月	第3編 第2章 第3節 1 社会契約説と啓蒙思想 2 人格の尊厳と自由—カント 3 自己実現と自由—ヘーゲル 4 幸福と功利 5 創造的知性と幸福	教 科 書	5	民主社会と人間の在り方や人間の尊厳、自己実現と幸福を論じた近代の諸思想を通して、善、正義、義務に着目して、自己の価値観を確立するとともに他者の価値観を尊重することの大切さを理解し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察させる	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
2 学 期	10 月	第3編 第2章 第4節 1 資本主義社会への批判 2 人間存在の地平—実存主義 3 世界と存在そのものへ—現象学 4 公共性と正義 5 社会参加と他者への奉仕	教 科 書	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民主社会における人間の在り方を論じた現代の諸思想を通して、善、正義、義務などに着目し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察させる。 ・ 自己実現と幸福を論じた実存主義の思想を通して、幸福、愛、徳に着目し、人生への問いや人間の存在や価値について自己の課題と結び付けて考察させる。 ・ 世界を捉える知の在り方を論じた現象学を通して、真理、存在に着目し、世界と人間の在り方について自己の課題と結び付けて考察させる。 ・ 社会参加と奉仕を实践した先人たちの事例を通して、善、正義、義務に着目し、主体的に社 	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート

					会に参加することの大切さについて理解を深めさせる。	
2 学 期	10 月	第3編 第2章 第5節 1 理性主義への反省 2 言語論的転回 3 科学観の転換	教 科 書	3	近代の世界観や人間観を問い直す知見を備えた現代の諸思想を通して、真理、存在に着目し、世界と人間の在り方について考察させる。	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
2 学 期	11 月	第4編 第1章 第1節 1 風土と日本人の生活 2 日本における神の観念 3 神と仏の出会い	教 科 書	4	日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や考え方や風土との関わり、また日本的美意識や自然との関わりに着目して、日本人としての自己意識と結び付けて、理解させる。	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
2 学 期	11 月	第4編 第1章 第2節 1 古代仏教の思想 2 鎌倉仏教の思想	教 科 書	4	外来思想である仏教を、日本独自の受容やその思想の形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
2 学 期	11 月 ～ 12 月	第4編 第1章 第3節 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 4 国学と日本文化 5 近世庶民の思想 6 近代国家への道	教 科 書	4	・ 外来思想である儒教を、江戸時代における儒学諸派の形成を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。・ 古代の精神の究明に努めた国学が、古代の日本人の心情と考え方をどのように捉えたかを理解させる。・ 近世庶民の思想や幕末の思想が、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解させる。	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
2 学 期	12 月	第4編 第2章 第1節 1 啓蒙思想家の活動 2 国家と個人の衝突	教 科 書	4	・ 西洋文化を摂取し、新しい文化や思想を形成した思想家たちを通して、現代を生きる日本人の思想形成にどのような影響を与えているかを理解させる。	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート

3 学 期	1 月	第4編 第2章 第2節 1 近代的自我 の成立と個人 主義 2 社会改革の 思想	教 科 書	4	・日本人の人間観、自然観、宗教 観の特質を、民俗学の知見を手 掛かりに、日本人としての自己 意識と結び付けて、理解させ る。	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの 読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
3 学 期	2 月	第4編 第2章 第3節 1 近代日本の 哲学者 2 近代日本の 思想傾向への反 省 3 現代日本と私た ちの課題	教 科 書	4	・日本人の人間観、自然観、宗教 観の特質を、民俗学の知見を手 掛かりに、日本人としての自己 意識と結び付けて、理解させ る。	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの 読み取り、定期テスト (c) ディスカッション、レポート
3 学 期	2 月	第5編 第1章 1 環境と倫理 2 生命と倫理 3 科学技術の 発展とその課題	教 科 書	3	先哲を含む他者との対話を通し て、生命、自然、科学技術など と人間との関わりについて倫理 的課題を見だし、その解決に 向けて倫理に関する概念や理論 などを手掛かりとして多面的・ 多角的に考察し、公正に判断し て構想し、自分の考えを説明、 論述させる。	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの 読み取り、定期テスト (c) ケーススタディ、プレゼンテー ション、レポート
3 学 期	2 月	第5編 第2章 1 文化や宗教 の多様性と倫理 2 国際平和と 人類の福祉	教 科 書	3	先哲を含む他者との対話を通し て、福祉、文化と宗教、平和な どについて倫理的課題を見だし 、その解決に向けて倫理に関 する概念や理論などを手掛かり として多面的・多角的に考察 し、公正に判断して構想し、自 分の考えを説明、論述させる。	(a) (b) 原典資料や芸術作品などからの 読み取り、定期テスト (c) ケーススタディ、プレゼンテー ション、レポート

合計 70時間